

社会福祉法人 宮城厚生福祉会

2015 年度事業報告

はじめに

2015年度は介護報酬改定、子ども子育て支援新制度の施行と大きな制度改変が行われました。また、2015年9月19日に安全保障法制（戦争法）が衆議院で可決されました。私たちは憲法が保障する「権利としての社会保障」の実現をめざすとともに、福祉従事者として平和を守り命の平等からあらゆる戦争政策に反対し、運動と対応を進めてきました。

戦争法廃止の運動はかつてなく広範な市民の運動となり、宮城や全国でも5野党と市民連合が協力するまで広がり深まっています。その共同の力は介護職員・保育士の賃金を上げる法案を提出する原動力ともなっています。運動の広がりと共に共同の力は社会福祉政策を前進させる上でも力になるものであり、さらなる発展のために、私たちも今後も引き続き力を尽くしていきます。

私たちは憲法で保障される「権利としての社会保障」の実現をめざし、日々の事業を行っています。しかし、社会福祉制度の実態は、憲法が掲げる理念から遠くかけ離れた状態です。国が自治体へその計画・実施・財政を丸投げする政策が医療・介護・保育などで続けて実施されています。保育制度では国は参酌基準を示すにとどまり、その決定・実施は自治体に求められています。介護保険法改定による「総合事業」への移行を行った自治体は200程度にとどまり、全自治体の2割に満たない状況です。医療保険では、医療費適正化計画を県ごとに作成し、社会保障費の削減を目標として管理していくことを行政の仕事とされました。私たちは、自治体に対して実施責任を問うとともに、国に対する改善要望を上げる窓口として粘り強く地域の状況を伝えていきます。

子どもと高齢者の貧困が社会問題となっています。6人に1人の子どもが貧困世帯に生活することや、高齢者の9割が「下流老人」へ転落する—これらの実態を改善するためには、社会保障政策の抜本的な転換が急務です。

4月14日から熊本・大分を中心とする九州地方で、大規模地震の頻発による大きな被害が起きました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、いち早い復興を願い、私たちも活動を継続します。

この地震により改めて災害の怖さと、その後いかにして地域住民の苦難を軽減するのかという点について、考えねばならないものとなりました。

熊本では福祉避難所が機能していないという報道がされています。福祉施設で不足する職員は167名（4月30日時点）と報道され、自治体から応援の要請がありましたが、介護報酬の削減含めた全国での介護職員不足により派遣困難であるという実態があります。災害時に地域の社会福祉施設の果たす役割と、その担い手の重要さが改めて浮き彫りになっています。宮城野の里で福祉避難所ができたのは、職員の奮闘と全国の支援によるものです。福祉を作るのは人です。他産業に比べ平均10万円程度低いといわれる介護・保育に携

わる職員の処遇改善は急務となっています。

東日本大震災から5年が経過しました。東日本大震災の復興もまだまだ課題があります。2016年4月から宮城県は被災者の医療・介護費用減免を打ち切りました。東日本大震災による困難を抱える方々への支援と制度の改善に今後も取り組みます。

2016年3月31日という年度末に、「社会福祉法等の一部を改正する法律案」が衆議院を通過、成立しました。

障がい事業に勤める職員の退職給付制度への国・自治体の補助金廃止や社会福祉法人が「地域公益活動」に取り組むことを義務化するなど、働く職員及び法人経営に新たな負担を強いるものです。一部の社会福祉法人の不正や、明確な定めのない「いわゆる内部留保」問題をはじめとした社会福祉法人バッシングを背景に、社会福祉法人が「余裕財産(内部留保)」を再投下して「地域における公益的な取り組み」を行うことを法律で義務化しています。さまざまな制度上の不備による社会福祉の諸課題に対して、社会福祉法人が無償または低額にて自主的慈善事業として実施することを求め、社会保障制度の補完的役割を担わせるものとなっています。法人として行政ともよく相談し、法的に準拠するべきところは実施していきます。

2015年度は人材確保の面でも困難に直面し、今後もその傾向が続く見通しです。介護福祉士養成校への入学者数は全国で約8千人、保育士は約4万人で、そのうちの約半数は低い処遇により他産業への就職を余儀なくされます。2017年度末に全国で不足する保育士は約9万人、介護職員は2025年で38万人不足すると言われています。人材確保と育成の課題は、事業を継続発展させる上で急務となっています。私たちの法人の理念に基づく介護・保育等の実践を学び深め、やりがいがある仕事としての魅力を実感できる人材育成と制度作りに取り組む定着を図ります。

2015年度はかつてない報酬の引き下げにより、経営困難の見通しの中、介護報酬即時改定の運動に管理部先頭に取り組んできました。職員の奮闘により経費削減に取り組むとともに、月9日休への変更をする中で決算は74百万円の黒字決算となり、資金としても約30百万円増加させ当面の危機を回避することができました。管理部・職員の奮闘に改めて感謝を申し上げます。社会保障審議会等での議論を見ると厳しい経営環境が続く見通しが示されています。利用者を守り、経営を守り、職員を守り、地域福祉を守りぬいていくために、経営活動の中で更なる取り組みを続け展望を開くとともに、介護報酬等の抜本的引き上げを訴えて大いに活動を展開していきます。経営活動・運動でも法人、施設の展望を切り開いていきます。

## 高齢者福祉施設 宮城野の里

4月に介護保険法の改定・介護報酬の引き下げがあり、収入への影響は大きかったです。一方、経費削減への取り組みは今年度も継続しており、成果が出ています。8月からの改定については一部利用者様にとって負担増となるものでしたが、宮城野の里の利用者様では、サービス利用控えに繋がった方はほとんどなく、安堵しました。但し、震災減免がH28年3月で打ち切られると、厳しくなる方々が出てくるのではないかと心配な状況が続きます。

宮城野の里の特性を活かした連携で、それぞれの事業所の利用率アップに努めましたが、通所介護は伸び悩みました。選択肢が多様にある地域の状況の中で『選ばれる』ために何をするのか、また、29年度にスタートする総合事業に向けてどのような準備を始めていくのか、方向性が定まらず、早急に取り組まなければならない課題です。自治体の情報と地域ニーズを良く把握しながらの対応をしていくことが必要です。

今年度初めての取り組みで、年6回開催した『里ライフスクール』は、地域の皆様に多数ご参加いただき、大変喜んでいただけた企画でした。地域包括ケアシステムの構築、法人理念の具現化の視点から、今後も様々な活動を通して地域の皆様に信頼され、頼りにされる施設であるように努めていきたいと思っております。

### I. 事業所

#### 【 福田町デイサービスセンターⅠ 】

##### 1、利用者動向

今年度は、昨年度より平均-7.5%という利用率でした。今年度の利用率低迷の理由としては、登録人数が曜日により変動があった事、体調不良等により入院される方が多い月もあった事、転倒による骨折から在宅復帰が難しく入院先から入所施設へ移行される方も多くおられました。

##### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	25	27	25	26	24	25	27	310
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実人数(予防)	25	23	21	21	20	20	20	19	19	21	20	19	248
実人数(介護)	68	66	67	69	72	76	71	71	75	73	71	70	703
延人数(予防)	118	110	94	106	90	86	92	79	89	87	90	105	1146
延人数(介護)	560	550	582	602	588	575	591	552	559	523	555	591	6828

利用率	87	84.6	86.6	87.3	87	88	84.3	84	83	84.6	86	86	85.6
平均介護度 (予防)	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3
平均介護度 (介護)	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7	1.8	1.6

## 2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2014	2015
開始者数	2	2	6	2	2	6	2	1	4	2	0	1	31	30
終了者数	1	5	1	3	0	4	4	1	3	2	0	0	29	25

## 3) 利用開始理由

開始理由	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学体験で 気に入った	入浴 目的	認知症進行 予防	他デイより 移行
人数	24		2		3		1

## 4) 利用終了理由

終了理由	入院	死去	入所	デイⅡ へ移行	本人が希望し ない	家族が希望 しない	リハへ 移行	転居	その他
人数	4	7	6	3	1				4

## 2、具体的な取り組みについて

### 1) お一人おひとりの「〇〇がしたい」を叶えます。

①利用者様の目標達成に向けて、ケアカンファレンスの中で情報収集をし、職員それぞれがご利用者の想いを汲み取りながら個別ケアにあたる事を目標にしてきました。曜日により登録人数の伸び悩みが目立ち、特に水曜日は空きが埋まらない現状から「水曜日企画」とし毎週お楽しみ企画を実施しました。内容としては、カラオケ喫茶・月間カレンダーづくり・季節の創作（創作したものはその日に持ち帰る等）を行いました。ボランティアさんの力もお借りし、利用者様が満足できる様創意工夫に努めました。

また、個別機能訓練の充実、季節毎の外出行事、事業所内での余暇活動の充実等に向けて取り組みました。利用者様よりデイサービスを利用することで生活にメリハリができていたとの話をいただき、個別ケアに対しての満足度を高める事ができたと思います。

②デイサービスで過ごされる環境空間について、相性の合う方との席の配慮、過ごしたいと思う居場所を提供し、昔家でよくやっていたお茶のみの場の雰囲気を感じながらご利用いただきました。

③アツアツのご飯とみそ汁を提供する為に、最後に盛り付け等をするように配膳の工夫をしました。利用者様からは、とても美味しいと好評をいただきました。

### 2) いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らせる為のデイサービスであります。

- ①デイサービスを利用する度に「また来たいな」と利用者様から思って頂き、ご家族からは信頼をいただいている事を連絡帳より読み取ることができました。
- ②ご自宅で入浴が難しい方でも安心して入浴でき、心も体も気持ちよく過ごせる支援に取り組みました。今年度は、車椅子対応の利用者様も多く、機械浴（リフト浴）の要望が多く聞かれていました。
- ③機能を維持し在宅生活を継続できるよう、アセスメントの為ご自宅へ訪問し、必要な訓練が出来るよう取り組みました。しかし、利用者様お一人おひとりが満足いただける訓練を実施できていたかの評価は充分ではありませんでした。今後も生活のし易さのために生活意欲の向上やADLの改善に向け機能訓練サービスを提供していきたいと思えます。
- ④ご家族の介護に対する精神的不安を軽減する為に、家族懇談会を年4回開催しました。4回開催した中で、認知症サポーター養成講座への参加されるご家族は多くおられました。

## 【 福田町デイサービスセンターⅡ 】

### 1、利用者動向

昨年の利用率と比較し、年間を通して安定した1年でありました。新規利用者獲得に向けて、近隣居宅介護事業所へ出向いての営業、来所された際の見学説明を行い新規事業所との関係づくり、体験利用時ご家族同伴での受入等行いました。利用者様対応では、朝起きられない、デイサービスへ行く準備ができていない時は、送迎時間を変更し、ご家族の事情に合わせての早朝受入、延長対応等を柔軟に行いました。

#### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	25	27	25	26	24	25	27	310
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
利用実人数	24	23	23	23	22	21	23	23	22	22	24	25	250
利用延人数	213	206	238	219	229	201	217	211	194	198	234	246	2606
利用率	68.3	65.8	76.6	67.5	73.3	66.6	66.6	70.0	62.5	69.1	78.3	75.8	70.0
平均介護度	2.7	2.7	2.7	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.7

#### 2) 利用開始理由

開始理由	利用開始合計	交流目的	ロコミ	家族の介護負担軽減	見学体験で気に入った	入浴目的	認知症進行予防	デイIより移行
人数	10	1	0	4	1	1	0	3

#### 3) 利用終了理由

終了理由	利用終了合計	入院	死去	入所	本人が希望しない	家族が希望しない	リハへ移行	転居	その他 (ロングショート)
人数	10	2	3	4	0	0	0	0	1

## 2、具体的な取り組みについて

### 1) いつまでも「わたし」らしく、共に過ごせる認知症対応型デイサービス

①毎月の内部研修の中で、根拠に基づいた認知症ケアの実践として、個人ファイルに目を通す時間を作り、常にご利用者の生活歴を振り返りながら意識して関わった事で、ご利用者が居心地よく過ごせる空間の提供ができたと思います。

②日々の活動の中で、ご利用者お一人お一人の認知症予防法について導入までは至らなかったものの、内部研修の中で学習し検討する事はできたので、次年度は導入方法について検討していきたいと思います。

③在宅生活を継続する為に、個別機能訓練の充実に向けての取り組み、早朝受入、洗濯ものの預かりサービス、ご家族の依頼に応じた延長サービスも実施しました。

④床屋に行けないご利用者へ、提供時間外サービスとして田子のまの床屋への付き添いを行いました。

### 2) 中身の見える認知症対応型デイサービス

①毎月、利用者様お一人お一人への「ほんわか通信」の発行、デイ便りの発行を行いました。ご利用者お一人お一人の様子をご家族、ケアマネへ報告することができました。

②家族懇談会を年4回開催する事ができ、毎回初めて参加されるご家族もいらっしゃり、テーマによって関心の差が出ることを感じました。

### 3) 内部・外部研修

外部研修としては、認知症介護実践者研修、同リーダー研修に各1名ずつの参加となりました。職場内研修では、デイサービス全体で課題に取り組んだことで認知症ケアについて理解を全員で深めることができました。

## 短期入所生活介護施設福田町】

### 1.利用者動向

病院から退院予定だが、すぐに自宅で生活するのは不安なためショートステイを利用し、自宅の暮らしに繋がっていきたいとのご希望や入院中状態が変わり、自宅での生活が難しい状況だが退院しなければならず、長期入所が決定するまでの間ご利用したい方が昨年より多い印象を受けました。介護者の入院やご利用者の圧迫骨折等入院しなくてもよい状態だが、ご自宅での介護を受けるのが難しい場合の緊急的な利用にも対応でき、安定した稼働率

となったと思います。

## 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
利用 実人数	79	77	75	68	70	65	64	72	66	75	74	75	860
利用 延人数	593	605	609	582	631	572	607	575	624	637	616	621	7272
利用率	98.8	97.6	101.5	93.9	101.8	95.3	97.9	95.8	100.6	102.7	110	100.2	99.6
平均 介護度	2.73	2.71	2.9	2.92	2.96	2.99	2.96	2.87	3.11	3.09	3.08	2.94	2.93

## 2.取組について

### 1) 『また来たい』と選んでいただけるショートステイを目指す

#### ①心地良い暮らしの支援

24h シートにて情報の共有はできたので、活用したケアをすすめていきたいと思えます。

ご利用中充実した時間を過ごしていただけるよう行事等取り組みを行いました。前年度と内容の異なることも行えましたが、ご利用者からの要望や意向が活かされたとは言い難く、普段から色々なお話を伺い、ご利用者の行いたいことを実現していきたいです。

#### ②見えるケアと統一性

日常の過ごし方の記録などはあまり出来ていませんでした。面会にいらしたご家族様には、お話を伺ったり、利用中のご様子をお伝えすることが出来たと思えます。

ユニットノートを使用して情報を把握し、ケアの統一ができてきたのですが、今後はケアの継続や変更の必要があった場合、自ら書き込み意見交換が活発に行えるようにしていきたいです。

### 2) 職員の力を伸ばし、暮らしの支援に繋げていきます

研修に参加する機会を増やすことができず、法人内での研修のみになってしまいました。知識が足りず、経験のみに基づいたケアを展開している場面があり、外部への研修の参加をすすめていくと共に、学習の機会をつくり、根拠に基づいたケアを行っていきたく思います。

3) 目標稼働率 97%

ほぼ目標の稼働率を達成できました。田子のまちと協力し、病院から退院される方の長期のご利用にも対応することができました。今後も緊急的な利用にも対応できるよう居室の調整を行っていきたいと思います。

【ヘルパーステーション宮城野の里】

1. 利用者動向

訪問回数は要介護1の方が最も多く、次が要支援1、要介護5、最も少ないのが要介護3でした。新規相談は毎月コンスタントにありましたが、年度後半は派遣可能な職員数が確保できずお断りするケースが増えました。但し、内部包括・居宅からの相談が多い支援困難ケースに関しては、多少無理をしても受け入れました。常にケアマネ等と連携・協力が図れる当事業所だからこそ選ばれ、ここでしか出来ない支援があると理解しています。

① 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
【全体】													
実人数	65	64	66	65	64	66	67	65	67	62	63	63	
延回数	658	632	683	689	639	710	736	643	695	646	609	639	7979
平均利用回数	21.9	20.4	22.8	22.2	20.6	23.7	23.7	21.4	22.4	20.8	21.0	20.6	21.8
【訪問介護】													
実人数	62	59	64	62	61	64	64	62	63	59	61	61	
延回数	627	600	665	666	621	683	703	613	651	613	589	615	7646
平均介護度	2.1	2.0	2.1	2.0	1.9	2.1	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0	2.1
【保険外訪問】													
実人数	6	7	3	7	4	4	5	5	8	6	4	3	
延回数	31	32	18	23	18	27	33	30	44	33	20	24	333

② 利用受付

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開始	0	1	3	1	2	3	1	1	1	0	2	1	16
終了	6	1	0	1	2	2	1	0	1	0	2	1	17

③ 開始理由・人数

掃除	買物	調理	入浴	排泄	薬の
----	----	----	----	----	----

④ 終了理由・人数

転居	入院	入所	死去	通所	家族
----	----	----	----	----	----

代行	代行	代行	介助	介助	受取
9名	3名	0名	4名	1名	1名

				移行	同居
0名	2名	8名	4名	2名	1名

## 2. 質の向上への取り組み

### ① 認知症の周辺症状が激しい方への支援

従来の申し送りはサービス提供責任者を介し口頭・ノートで行うのが主でしたが「心身の情報シート」「成功・失敗事例共有シート」に、ヘルパー自身の気づきを毎日書き足して情報量を増やす事で好みのケアの統一を図り、周辺症状の軽減に繋げることができました。

### ② 食べたくない方への支援

「見た目が嫌」「食材が嫌」「食べたい物がわからない」と、ヘルパーの料理がなかなか召し上がれず「制限無。日に3度の食事」との主治医の指示が守れず、入退院を繰り返す方がいらっしゃいました。召し上がった日、召し上がらなかった日のヘルパーの対応を詳しく調査、分析した結果「何が食べたいですか」と質問するのではなく「冷蔵庫にあるものを知らせる」「ある食材で作れる献立の提案をする」「選択肢のある質問をする」と召し上がる確率が高くなる事や「目玉焼きは超半熟、煮魚は煮汁多め、冷やし中華は麺と汁別々」等の好みがある事など、担当ヘルパー毎の対応の違いが食欲に影響を与えている事が判明しました。毎回献立や本人評価等を記録して共有することと、良い日の対応を統一する事で、召し上がって頂ける頻度が増え、体調の改善がみられました。

### ③ まとめ

根拠に基づいたケアを提供するには、アセスメントをしっかり行うこと、誰からみてもわかりやすい介護計画を作成すること、適宜カンファレンスを行い、情報共有と振り返り、お互いのケアのチェックを行っていくことが重要なので、ヘルパーさんたちとしっかり協力しながら次年度も質の向上に向け取り組んでいきたいと思っております。

## 【ケアハウス宮城野の里】

### 1.入居者動向

#### 1)入居年数

(2016.3.1)

	0～5年	6～10年	11～15年	計
男性	5	0	1	6

女性	19	3	2	24
計	24	3	3	30

## 2) 年齢状況

年齢(歳)	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均年齢
男性	0	1	0	1	1	3	0	6	82.6
女性	0	2	2	4	6	8	2	24	82.2
合計(人)	0	3	2	5	7	11	2	30	82.3

## 3) 退所者数・理由内訳

退所後	特養	死亡	他施設	自宅	合計
人数(名)	2	2	1	1	6

## 4) 要介護認定者・内訳

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数(名)	12	2	3	1	1	0	1	20

## 5) 介護保険サービス利用者数・内訳

サービス 種別	訪問介護		通所介護	通所リハ	訪問入浴	訪問看護	居宅療養 管理指導	合計
	生活援助	身体介護						
人数(名)	9	4	2	5	0	0	4	24

6) 入院者：7名（内訳：大腿部骨折1名、癌2名、脳梗塞1名、大腸出血1名、  
変形性膝関節症手術1名、整形へ検査入院1名）

7) 車椅子利用者：0名

8) 入居待機者数：58名（2016.3.1現在）

## 2. 取り組み

今年度は、田子のまちが開所した時と同じくらいの入居、退去がありました。高齢による様々な変化や症状に早期に対応できるよう心身の状態把握と生活の継続について取り組みました。

入居者様の心身の状況を把握する為、毎朝居室訪問を行いました。様々な相談があり受診が必要な方には職員が受診援助をすることもありました。また、その必要性はないが精神的な不安を抱えられている方も少なくありませんでした。職員同士でケースカン

ファレンスが日々できていた事でお一人お一人に対応が出来ていたと感じます。介護予防について、お昼の健康体操は入居者様からの要望も多く聞かれ職員としても必要性を感じていますが実施できない事が多かったです。また、骨折事故が2件ありケアハウスでの生活継続が困難になったケースもありました。来年度には健康体操の継続の他に、さまざまな学習会やケアハウス懇談会などで企画をしたいと思います。

趣味活動、グループ活動では、高齢ではありますが入居者様自身で定期的に活動をしています。自主性を大切に職員としてのかかわりは一緒に参加することと考えています。コーラスめだかは、自らの健康づくりの為に活動し、地域のボランティアさんともかかわりを持ってました。ケアハウス行事や里まつりでも披露する事が参加される方の励みにもなっていました。カラオケサークルやケアハウスでの喫茶店は入居者様の楽しみの場として定着しています。

職員のスキルアップについて、外部研修へ参加し他ケアハウスの状況も知ることができました。

### 【居宅介護支援宮城野の里】

#### 1. 利用者動向

前年度までは新規のほとんどが福田町包括からの紹介でしたが、今年度は本人家族から直接依頼のケースが同じ位ありました。利府包括や総合病院からの紹介も増えています。

介護支援専門員の数が増えたことで、事業所全体のスケジュール調整が円滑化され、8～9件/月の受け入れも可能になりました。

##### ① 利用者数推移

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	26年度末	25年度末
平均介護度	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.1	2.2	2.2
総合計	177	175	179	178	180	186	184	183	186	185	187	194	176	134

##### ② 請求件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度	前年度比
介護	163	156	162	166	164	167	172	169	176	172	169	175	2011	1527	131.7%
予防	9	7	9	7	8	9	7	7	7	6	6	6	88	63	139.7%
計	172	163	171	173	172	176	179	176	183	178	175	181	2099	1590	132.06%

##### ③ 利用受付

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度	前年度比
新規	8	5	8	3	5	7	5	5	6	4	6	9	62	56	110.7%
終了	8	3	5	5	1	3	4	8	3	4	4	2	50	39	123.0%

##### ④ 新規紹介者

紹介者	福田町包括	高砂包括	利府包括	本人家族	知人	病院	風の音	他居宅	計
H27年度	25	0	6	22	2	6	7	3	71
前年度	41	4	0	7	1	3	0	0	56

#### ⑤ 契約終了理由

理由	死亡	特養	小規模多	グルホ	老健	長期入院	療養型	包括	居宅変更	移転	他	計
H27年度	18	6	0	4	10	4	2	3	2	0	1	50
前年度	22	3	1	1	1	4	0	3	0	2	2	39

## 2. 支援困難ケースの受け入れ

在宅の介護力ゼロの中、特養からの在宅復帰を希望する要介護5の胃瘻の方や、全く身寄りが無い中、県外の障害者施設を退所して仙台の普通のアパートで一人暮らしを始めた要介護2の車椅子の方など、様々な支援困難ケースを積極的に受け入れてきました。

前者については、在宅復帰後に、支援の中心を担っていた定期巡回・随時対応訪問介護看護事業所が閉鎖するなどの想定外の問題も発生しましたが、介護保険以外のサービスも効果的に組み合わせることや、在宅訪問診療との連携を図ることで、現在の暮らしへの満足度は特養入居中よりも上がっています。

後者については、まだ困難時期を脱出していません。事業所全体で議論・課題を整理しながら、行政とも連携を図りつつ、困難脱出に向け支援していきたいと思えます。

## 3. 苦情・要望への取り組み

### ① カンファレンスと学習会

定期的なカンファレンスと学習会により「クレームはどのように気をつけていても発生する、組織で検討すべきで発生させた個人に検討させても何の意味も無い、小さな要望を沢山集めて防止策を検討するのが大事、業務改善の出発点、お客様の贈り物」など、正しいとらえ方や考え方が定着し、大きなクレームの発生を防ぐことができました。

### ② 満足度調査の実施

- ・調査対象：利用者（家族）様全員 ・調査期間：12月1日～1月31日
- ・配布方法：配布は介護支援専門員による配達 ・回収方法：郵送（返信用封筒同封）
- ・配布数：163人 ・回収数：80人 ・回収率：49.1%
- ・調査項目・回答結果：下記のとおり
  - イ) アンケート回答者：本人18%、家族77%、本人と家族5%。
  - ロ) 担当氏名周知度：100%。
  - ハ) 言葉遣い・態度：適切86%、普通11%、適切でない3%。
  - ニ) 身なり・清潔感：適切78%、普通22%、適切でない0%。
  - ホ) プランの解り易さ：よく解る59%、解る38%、わかりにくい0%、未回答3%。
  - ヘ) プランへの意向反映：なっている94%、どちらとも言えない4%、なっていない0%、未回答2%

- ト) 介護保険ケアマネの支援による生活の改善:改善90%、変化無9%、改善無0%。未回答1%。
- チ) 連絡取り易さ:常に取りれる77%、概ね取れる22%、未回答1%。
- リ) 対応の速さ:対応早い96%、どちらとも言えない3%、対応が遅い0%、未回答0%。
- ヌ) 相談し易さ:相談し易い95%、どちらとも言えない1%、相談し難い0%、未回答4%。
- ル) 知人に勧めたいか:是非78%、どちらとも言えない16%、勧められない1%、未回答5%。
- ヲ) 総合評価:満足67%、概ね満足25%、やや不満1%、不満0%、未回答4%。

#### 4. 仙台市実地指導及びケアプラン適正化事業

開設後初の実地指導と2回目のケアプラン点検が同日に実施されました。万が一運営基準減算に該当すると年間約800万円の減収となる為、通知が届いた日から大急ぎで自己点検開始しましたが、減算項目遵守の「証拠となる記録」漏れが多い状況が判り、全員で協力して記録を整えました。何とか減算は免れましたが「恒常的にケアプラン適正化が図れる仕組み作り」が課題として残りました。

#### 【福田町地域包括支援センター】

##### 1. 担当圏域の状況と課題

田子西地区に復興公営住宅が6棟完成し、集団移転地域には戸建住宅が建ち、担当圏域では高齢化率と高齢者人口が増えました。

相談の内容としては、経済的困窮者や身寄りのない方、精神疾患、認知症などの複数の課題を持った方の相談が目立った年でした。介護保険のサービスだけでは生活を維持できず地域の方と包括、行政のそれぞれの担当課（保護課、高齢者支援、障害者支援）との連携を必要とする方が増えてきました。

##### 2. 2015年度の総括

###### ① 予防プラン件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	157件	150件	158件	146件	152件	152件	157件	151件	148件	143件	146件	151件
委託件数	(54)	(58)	(55)	(51)	(56)	(54)	(54)	(48)	(44)	(42)	(41)	(41)
新規	3	5	8	1	7	6	9	4	6	2	3	5

###### ② 相談件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
130件	91件	73件	81件	99件	106件	92件	84件	92件	87件	71件	72件

###### ① 社会資源の把握

・生活支援校コーディネーターが中心になって既存の社会資源を地区ごとファイリングし福祉マップを作成しました。

・また足りない社会資源について地域の方と共有する機会を作り地域課題を明らかにしました。

## ② 認知症の取り組み

・サポーター養成講座を年2回開催し地域の方へ普及啓発しました。また各町内会のサロンでも認知症についても普及啓発を行いました。

・認知症カフェを年4回開催し、介護家族の交流と専門職とのミニ勉強会や相談会を行いました。

・担当圏域の認知症の方と家族にアンケートを実施しました。居宅支援事業所のケアマネジャーの協力で生活や介護の状況、地域との関係、介護サービス以外に必要と感じているものなどの設問で実態と課題を把握することができました。

・認知症の支援困難事例を仙台市の認知症初期集中チームに依頼し他職種との連携で早期の対応に努めました。

## ③ 地域ケア会議と包括ケア会議の開催

・地域ケア会議を年4回開催しました。(5月、7月、10月、3月)地域の参加者事業所などと高齢者の課題や支援方針などの情報を共有し役割を確認、ネットワークの構築が図れました。

・包括ケア会議は各小学校区で3回、全体会議を1回、合わせて4回開催しました。内容としては、地域ケア会議の報告と包括の活動報告などとして顔の見える関係が作れました。

④ ケアマネ支援としては年1回高砂包括と合同で「地域ケア会議」についての学習会を開催し地域ケア会議の理解を深め今後の協力も依頼しました。

⑤ 権利擁護の学習会を地域の方からのアンケート結果をもとに「消費者被害」、「高齢者虐待」についてのテーマで年2回開催しました。

⑥ 包括の広報誌を年4回作成しPRに努めました。(4月、6月、9月、2月)内容は包括の活動紹介や自主サークルの紹介をしました。

⑦ 介護予防教室は年20回開催しました。その中で認知症教室は地区社協の共催を得て6回開催しました。

## II. 部門

### 【事務部門】

#### 1) 各事業所との連携

当初予算・補正予算作成時に各事業所と打合せを行い、利用率や平均介護度、給付管理数などを確認して、より正確な予算を作成することが出来ました。

また、職責者と常に現在の利用率などの情報を確認し、収支や予算達成状況を共有することが出来ました。

#### 2) 待遇

施設の顔として常に意識し、電話対応や来客対応をすることが出来ました。

### 3) 実務

業務の再振り分けや毎朝打ち合わせを行い、事務員内での情報の共有化、現在の業務の進捗状況、業務連携を行うことで、作業の効率化や技能向上を図り、超勤削減につながりました。

### 4) 各種運動

国会要請や法人ジャンボリー活動、福祉ウェブ、戦争法反対デモ、平和を考えるつどいなど各種運動に積極的に運動の推進者として参加することはできましたが、現場の体制上の問題もあり、現場職員の運動への参加は少ししかできませんでした。

## 【食養部門】

### 1、嗜好に応える食事について

パン食を希望する方には、毎日パン食を提供し、体調不良で食欲がない方には「梅干し」などをすぐに提供することができました。食事委員会でアンケートを行った結果、多くの利用者様は自宅で麺料理を食べていることがわかり、食事委員会・食養会議で検討して平日の昼食時に、デイ利用者様に麺料理を提供しました。好評で引き続き平日にも麺料理を提供することになりました。

### 2、介護食・治療食について

ショート利用者様に治療食の食種が増えたため、個別に献立を作成し、料理も別に調理して提供することができました。介護食については、2月に新しい酵素剤を使用して調理の学習会を行いました。従来の酵素剤は食肉だけの使用でしたが、新しい酵素剤は魚・根菜類にも使用できるものに変更することとしました。

### 3、適時適温な食事

日曜日の昼食時に、ショートのフロアに行って、盛り付けや、配膳の手伝いを行うことができました。「美味しいヨ」「美味しかった」などと声をかけてもらえ、職員にとっては励みになりました。

### 4、選択食・行事食

毎月の行事食の他、敬老会、クリスマス会などこだわりをもってやることができました。十月には、宮城野区寿司組合のみなさんの訪問があり、入居者様・利用者様にお寿司を振舞って頂きました。握っているところを近くで見ることができ、みなさん喜んで食べていました。

## 5、今年度の行事食

月	行事名	献立
4	観桜会	桜おこわ、カニ糸揚げ、豆腐と南瓜の木の芽あんかけ、うるいと海老の酢味噌和え。
5	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
6	ステーキ祭り	焼き立てステーキとサラダ、スープ
7	七夕会	しそゴマご飯、鮭のサルサソースマリネ、茄子とズッキーニチーズ揚げ、ゴーヤと茹で鳥のサラダ、ミルクスープ
8	ビアパーティー	焼き鳥、帆立のバター焼き、フランクフルト、枝豆
9	敬老の祝い膳	赤飯、刺身盛り合わせ、茶碗蒸し、海老入りガンモあんかけ、ゴマクリーム
10	芋煮会	芋煮汁、おにぎり、卵焼き、一夜漬け、梨
10	秋刀魚炭火焼大会	秋刀魚炭火焼、ゆかり御飯、けんちん汁、柿
	宮城野区寿司組合	握り寿司
12	クリスマス会	ロールパン、挽肉のハッシュドビーフ、じゃがたら煮 気まぐれサラダ、リンゴの豆腐クリーム、コーンスープ
	大晦日	ナメタ鰯の煮付け、お煮しめ、おかか和え、なめこ汁
1	お正月	お雑煮、あんこ餅、手作りのお節料理（鱈の照り焼き、黒豆、有頭海老酒煮、数の子、文化巻き他
	新年会	ホッキ飯、刺身の盛り合わせ、海老真丈、茶碗蒸し、フルーツ、薬味ソーメン
2	ステーキ祭り	焼き立てステーキとサラダ、スープ
3	雛祭り	ちらし寿司、独活の黄身酢かけ、露の甘辛炒め、浅蜷の清汁

## Ⅲ. 委員会

### 【事故・感染症・身体拘束・虐待防止委員会】

#### 1) 2015 年度目標

- ①利用者様、入居者様の人権を守る為に、高齢者虐待を防止する為の仕組みを整えます。
- ②施設内で感染症が蔓延しない仕組みを整えます。
- ③事故を防止する為の仕組みを整えます。
  - ・各種マニュアルを見直し、各部署に周知して行きます。
  - ・再発防止に有効な対策が各部署では見つからず、繰り返し起きている事故・重大な事故や

苦情について同様の事故が起こらない様再発防止策を検討していきます。

- ・ヒヤリハットの重要性を再度確認し、報告書の検討をしていきます。

④災害時における、利用者様、入居者様、職員の安全を守るための仕組みを整えます。

- ・各種マニュアルに基づいた研修や学習会、訓練を実施します。

## 2) 2015 年度振り返り

①について

- ・高齢者虐待防止の仕組みについて各職場で内部研修会の実施をしました。

②について

- ・感染症対策について各職場でマニュアルの確認、想定したシュミレーションを内部研修会で実施しました。

③について

- ・事故防止についてのマニュアルの見直し、苦情についてのフローチャートを作成し、手順に沿って作成する様式は途中の段階のため、次年度も引き続き検討していきます。

- ・ヒヤリハットの重要性を毎回の会議の中で確認し、ひとつでも多くのヒヤリハットを見つけ出す仕組みについて各職場で定着する事ができました。これらのヒヤリハットをどのようなかたちで原因を分析し、対策としていくかは次年度の課題とします。

④について

- ・災害時におけるマニュアルとして「風水時における応急対応マニュアル」を作成しました。

- ・危機管理マニュアルの具体的検討はできなかったため、次年度の課題とします。

- ・避難訓練（日中帯・夜間帯）の中で、地震を想定した避難訓練の実施も次年度は検討していきたいです。

⑤全体をとおして

- ・さまざまな事項（事故・感染症・身体拘束、虐待防止）を一つの委員会で話し合う事は、とても大きな課題であったと思います。さらに、細分化した形での委員会の編成ができればと思いました。

## 【食事委員会】

今年度は、利用者様の御家庭での食事について、食事アンケートを秋に行いました。

アンケートの結果を委員会で検討しその検討結果を利用者・家族様に報告することができた。大きく変わった事は、平日に麺料理を提供していませんでしたが、多くの利用者様は自宅で麺料理を食べていることがわかり、平日の昼食に麺料理を提供しました。食事委員や他の職員からの献立提案も行われました。普段の食事の内容と違って、喜ばれました。

おやつに関しては、聞き取りはできましたが、検討することができなかつたので来年度の課題として残りました。

### 【地域連携ボランティア委員会事業報告】

#### 1. 平成27年度の目標

今年度は、3つの目標をたて、活動を行いました。

- ① 地域との関わりを積極的に行います。
- ② ボランティアとの交流を行います。
- ③ ボランティアの受け入れ態勢を整えていきます。

#### 2. 活動報告

- ① 11月8日（日）田子地域の防災訓練に車椅子操作の指導で参加し、委員自身が地域を知るいい機会になりました。また、地域の方にも宮城野の里の職員が参加していることを知っていただきました。
- ② 10月21日（水）ボランティア交流会を開催し、18名のボランティアの方に参加していただき、日頃の感謝ができました。また委員自身がボランティアとの交流によりボランティア受け入れへの意識を高めることができました。
- ③ 今年度は、田子児童館や個人ボランティアを新しく受け入れました。演芸ボランティアの希望もありましたが、受け入れる時間帯や場所など環境を整えることが今後の課題となりました。

### 【社会保障委員会】

#### ① 社会保障委員会へ積極的に参加し、職員へ広めます。

- ・それぞれの現場の厳しい職員体制の中ではありましたが、福祉ウェブ等、できる限り参加しました。
- ・参加した活動の報告はニュースを作成して・・・と計画しましたが取り組めませんでした。

#### ② 定期的に学習を行い、運動につなげます。

- ・定期開催の委員会の中で学習に取り組みました。それを職員全体に広げることは不十分でした。様々な活動を職員全体へ広げることについては次年度も課題とし取り組みたいと思います。
- ・各種署名については、それぞれの委員から各部事業所部署に周知し、多くの職員の協力を得ながら取り組むことができました。

#### ③ 原水禁世界大会に職員を派遣できるよう働きかけを強めます。

- ・原水禁世界大会には、宮城野の里から参加者は送り出せませんでした。が、財政活動は積極的にいき、法人からの代表派遣に貢献することができました。

## 【広報委員会】

### 「役立つ広報活動」

- ① 広報紙は年3回（4月、9月、1月）発行します。
  - ・記事の内容に合わせて発行月を変更することはあったが、年3回の発行ができました。
  - ・以前に比べて出来栄も良くなったと評価して頂けるようになりました。
  - ・ご利用者からは「自分の写真が載っていて嬉しかった」との声もありました。
  - ・ケアハウス入居者様に袋詰めをお願いし、協力を頂くことができました。
  - ・広報誌を各事業所に置いていなかった事で、利用者様に広報誌を見ていただく機会を作れませんでした。
  - ・各事業所の行事がいつも同じだったので、次年度は工夫します。
  - ・デイⅠ・デイⅡの特色が出せなかったように思います。
  - ・郵送前の仕分け作業の担当を決めておらず大変でした。
  - ・宮城野の里を利用している方（家族含め）は意外と見ていない様でした。連絡帳に挟むだけでなく、送迎時に一言声をかければ見て頂けるのではないかと、思います。
- ② ホームページは節目で更新し常に最新の状態にしていくようにします。
  - ・変更があるごとに更新する事ができました。
  - ・みどりの風の更新はできました。
  - ・デイ便りは載せる事ができませんでした。
  - ・各事業所の料金表が見つらいとの意見がありました。
- ③ 新しいパンフレットを完成させます。  
完成することができました。
- ④ 会議等の取り組み  
月1回定期的に開催する事ができました。

## 【在宅事業所連携委員会】

### 1. 活動内容

7つの「在宅介護」事業所が在る「宮城野の里の価値」を最大限に活かし「この地域の社会資源」としての役割を果たすことを目的に、月1回各7事業所職責者が集まり、事業所の枠組みを超えた視点で、利用者様に対する職場のケア・支援の質、それに影響する職場の風

士の改善・スキル向上についての話し合いと、地域にお住まいの方対象の学習会の企画・運営を行いました。

## 2. 地域向け「里ライフスクール」実施状況

テーマ・講師	開催日時	場所	参加者数
知って得する「介護保険」 講師：福田町包括所長 山田敦子	5月20日（水） 13：30～15：00	宮城野の里	50名
知って得する「おいしいご飯」 講師：宮城野の里管理栄養士 阿部徳也	7月15日（水） 13：30～15：00	宮城野の里	17名
知っておきたい「認知症のはなし」 講師：認知症当事者 丹野智文氏	9月15日（火） 14：00～15：30	田子のまち	80名
知って安心「トイレのこと」 講師：（株）クララケア・サポート 舘亜美氏	11月25日（水） 13：30～15：00	宮城野の里	22名
知って便利「介護お助けグッズ」 講師：（株）フロンティア 庄司泰裕氏	1月20日（水） 13：30～14：30	宮城野の里	11名
知っておきたい「お金のはなし」 講師：福田町包括所長 山田敦子	3月16日（水） 13：30～15：00	宮城野の里	69名

## 介護老人福祉施設 十符・風の音 デイサービスセンター木の実

2015 年度も基本理念を中心に、ご家族や地域の皆様のご協力を頂きながら、入居者様、利用者様の暮らしを支える努力をして参りました。

施設入居部門では、指導監査やユニットリーダー研修実地研修施設受入再調査があり、外部の方から施設運営や入居者様への支援について評価を頂きました。年間を通して稼働率 90%後半で推移できたのは、各職員の健康面や安全面へ留意し取り組んだ成果だと思えます。また、空床期間を最短で埋めることができるよう、入居判定の効率化が図られました。

在宅部門では定期利用されていた方の施設入居が多く、稼働率に色濃く反映される結果となりました。新規利用者獲得に向けての取り組みが 2016 年度の課題となります。また、4 月、8 月と 2 段階で介護保険制度が変更となり、利用料増加を理由に利用を控える方もおられました。介護保険施設を使う側にも運営する側にも制度が改正されるよう、情勢学習に励み、社会保障運動を継続していきたいと思えます。

各委員会での活動は、勉強会開催や、マニュアルの見直しをする等、他部署と連携を図りながら、横のつながりを持って取り組むことができました。重大な誤薬事故がゼロ件だったことや、第 11 回風の音ふれあいまつりを含め、2015 年度も 1300 名を超えるボランティアの皆様にお越し頂けたこと、体調を崩し長期に及び職場を離脱した職員がいなかったこと等、各委員会の重点活動が成果となって表れた年となりました。

収入予算については各部署の奮闘もあり、執行比率 100%に到達しました。また、全体で取り組んだ経費削減等の成果もあり、経営改善につながりました。2016 年度も安定した施設運営が行えるよう取り組んで参ります。

### I 事業規模

#### 1 長期入居

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
定員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
延利用者可能数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,450	1,550
延利用者実績数	1,488	1,550	1,482	1,521	1,527	1,490	1,536	1,464	1,503	1,521	1,413	1,544
利用者/日	49.6	50.0	49.4	49.1	49.3	49.7	49.5	48.8	48.5	49.1	48.7	49.8
利用率	99.2	100.0	98.8	98.1	98.5	99.3	99.1	97.6	97.0	98.1	97.4	99.6
利用者実数	50	50	50	50	50	50	50	49	49	49	49	50

## 2 ショートステイ(短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延利用者可能数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	580	620
延利用者実績数	522	541	533	546	525	540	555	520	552	525	531	515
利用者/日	17.4	17.5	17.8	17.6	16.9	18.0	17.9	17.3	17.8	16.9	18.3	16.6
利用率	87.0	87.3	88.8	88.1	84.7	90.0	89.5	86.7	89.0	84.7	91.6	83.1
利用者実数	76	83	83	79	73	76	81	76	81	74	71	79

## 3 デイサービスセンター(通所介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	24	25	27
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
延利用者可能数	780	780	780	810	780	780	810	750	810	720	750	810
延利用者実績数	631	629	614	644	613	591	644	586	614	559	538	569
利用者/日	24.3	24.2	23.6	23.9	23.6	22.7	23.9	23.4	22.7	23.3	21.5	21.1
利用率	80.9	80.6	78.7	79.5	78.6	75.8	79.5	78.1	75.8	77.6	71.7	70.2
利用者実数	70	71	69	69	66	65	67	61	65	64	60	59

## 4 全体予算対比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算合計収入	31,438,000	32,320,000	31,438,000	32,501,000	34,286,000	33,373,000	34,510,000	32,364,000	33,260,000	33,045,000	30,575,000	33,689,000
合計収入	32,446,000	33,782,481	32,510,789	33,765,239	33,380,199	32,721,152	34,030,402	32,186,056	33,161,410	32,732,260	31,196,532	32,772,122
差額合計	1,008,000	1,462,481	1,072,789	1,264,239	-905,801	-651,848	-479,598	-177,944	-98,590	-312,740	621,532	-916,878

## II 各事業所報告

### 1 デイサービスセンター木の実

#### (1) 目標「利用率を上げます」に対する評価・総括

毎週複数回ご利用の方々が入院や入所、また、亡くなられ、お試し利用の方を積極的に受け入れ、毎月平均1名の新規利用の方を受け入れていますが、利用率向上には繋がっていませんでした。しかし、今年度も行事や個別ドライブを積極的に試み、ご利用の皆様やご家族様からは大変好評でした。

#### (2) 具体的取り組みの評価・結果

① 倶楽部活動の種類を増やし小集団での活動を増やす。散歩の機会・個別のニーズにも耳を傾け、可能な範囲で実現する

・散歩では、施設内の散歩の付き添いが中々出来ず、個別のご希望に対応出来ていませんでした。倶楽部活動の種類も増やせませんでした。

② 余暇活動を有意義に過ごして頂けるよう、本を増やすなど図書コーナーの充実を図る

・新たに雑誌コーナーを、フロアの見やすい場所に設置した為、自由に選んでいる姿が見られました。また、手作業の個別ファイルもフロアの中央に移動したので、ご自分でファイルを取り、ご本人様のペースで余暇時間を過ごされている方が増えました。

- ③ 上半期中に満足度調査のアンケートを実施、改善点やニーズを把握する
  - ・2月に実施し、現在集計中です。集計結果は来年度の活動に活かします。
- ④ 内部研修・外部研修へ参加し、介護職・相談員のスキルアップを図る
  - ・徐々にですが、外部研修にも参加出来ています。内部研修では外部講師によるものもあり、一人一人の意識づけに繋がり、現在のケアの振り返りになりました。
- ⑤ 事業所紹介の機会や地域の集まりの場に参加する。新規利用者様の受け入れや利用回数を増やし、稼働率につなげる
  - ・事業所紹介や地域の集まりの場に参加出来ませんでした。また、利用回数追加と新規利用者の受け入れを積極的に行いましたが、キャンセル分の穴埋めまでには至りませんでした。

### (3) 行事、外出状況報告

4月	お花見ドライブ	10月	芋煮会
5月	端午の節句（柏餅作り）、園芸	11月	お出掛けドライブ
6月	映画鑑賞会、運動会	12月	クリスマス、キャンドル作り
7月	七夕、流しそうめん	1月	新年会、初詣ドライブ
8月	夏祭り	2月	節分、職員かくし芸大会
9月	敬老会	3月	ひな祭りケーキバイキング、倶楽部活動

## 2 ショートステイ

### (1) 目標「利用者様の笑顔に繋がるショートステイを築きます」に対する評価・総括

職員のコミュニケーション不足がケアの不十分さを招き、事故につながっています。また利用者様、ご家族より接遇に関するご意見もありました。

退所日には「自宅に帰れる喜び」の笑顔はたくさん見ることができます。利用中「安心して過ごせる喜び」の笑顔をたくさん見ることができるようケアの内容、接遇の見直しが必要です。

### (2) 具体的取り組みについて評価・結果

#### ①全職員が利用者様の安心、安全を考え統一したケアを行う

・骨折事故、無断外出事故がありました。原因不明の内出血、水疱といった事故が対策を立てていても繰り返し起きています。誤薬に関してはマニュアル違反、職員申し送り不足が原因で起きています。全職員が利用者様の安心、安全にショートで過ごして頂くための意識改革や事故対策の検討方法の見直しが必要です。

#### ②ケアの中で得た細かい情報を会議の場で共有する

・毎月の各ユニット会議でケース検討を行っています。各ユニット会議で検討された事項をショート会議で話し合い、詳細な検討、情報共有しケアを実施しています。

#### ③ご家族様、ケアマネジャーからの声を大切にする

・ご本人、ご家族、ケアマネジャーからのご意見、ご要望に対して、迅速に事実確認を行い、

改善策を検討し対応しています。また職員全員で皆さんからいただいた声を進撃に受け止め、同じことを繰り返さないように努めています。

④職場環境をより良くする

・職員のコミュニケーション不足が、申し送りや各部署との連携に滞りを生じさせていました。また積極的に内部・外部研修に参加する機会が持てず、1人1人がスキルアップしながら仕事に取り組みませんでした。

(3) 2015年度介護度

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護度	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.3
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護度	3.3	3.1	3.2	3.3	3.0	3.2

3-1 特養長期入居

(1) 目標「入居後の暮らしが居心地の良い場所になる為の橋渡しを行う」に対する評価・総括

・今年度は入院者が多く、またターミナル期に入られた方も多い年度となりました。ADLやQOLに大きく変化が出た方もいらっしゃいますが、これまで通り居心地の良い場所として、暮らしのお手伝いが出来たと感じております。また、11名の方の退居がありましたが、取り組みの結果として12名の方が新たに入居されました。今後も稼働率を意識し迅速な受け入れ・情報共有をしていきます。

(2) 具体的取組に対する評価・結果

①迅速な入居の受け入れを目指す

・申込者への状況確認や実調を定期的に行うことができた反面、ご家族との連絡調整に時間がかかったケースがありました。状態変化で入居直前にキャンセルになったケースもあり、迅速な受け入れができませんでした。

②好みやこだわりが継続できるよう情報の伝達を図る

・事前の情報収集を欠かさないことで、環境が変わっても安心して過ごしていただける暮らし・情報の提供が出来ました。

③入居規定に基づいた入居者選定を行う

・今入居されている方の暮らしを守る事を念頭に、職員体制なども勘案しながら、利府町の職員とともに入居規定に基づいた公正な判断ができました。

(3) 2015年度稼働率 3月末現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数%	99.2	100	98.8	100	100	99.3	99	97.6	97	98.1	97.7	99.6
入院者数	2名	1名	2名	2名	1名				1名		1名	1名
退居者数			1名			1名	1名	2名	2名	1名	3名	

入居者数	1名		1名			1名		1名	2名	2名	3名	1名
稼働率%	97.7	98.7	96.9	97.4	98.5	99.3	99	97.6	96.5	98.1	95.5	

(4) 介護度別 3月末現在

平均介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4.12	1名	1名	9名	19名	20名

### 3-2 施設ケアマネジャー

(1) 目標「施設サービスが、漫然かつ画一的なものにならないように、個別性のあるケアプランを作成する」に対する評価・総括

・同じ目標及びニーズのケアプランがなく、個別性のある(50通りの)プランを作成できています。平成27年10月に実施された実地指導では、「ケアプランのニーズ項目が以前より増えていて良い」とのコメントがありました。

(2) 具体的取り組みに対する評価・結果

①課題分析(アセスメント)

・新規入居、要介護認定更新、状態変化のためのケアプラン見直し時期には、宮城県版のアセスメントツールを使用して、アセスメントを実施しています。

・6月28日、宮城県ケアマネジャー協会主催の研修(内容「施設ケアマネジャーの役割」)に参加しています。

②ケアプラン作成

・プラン長期目標期間については、状態不安定の場合は「1~3ヶ月」、安定している場合は「6ヶ月~1年」に設定しています。

・短期目標の内容は、具体的に目標にしています。

例、「下肢筋力を維持する」→「毎日、お部屋からリビングまで歩くことができる」

③サービス担当者会議の開催

・定期以外の開催は年間トータル22件。介護、医務、食養部門からの要請で開催しています。

・参加できない専門職からは、メールもしくは口頭で照会し、回答をもらっています。

④評価(モニタリング)

・看取り期、状態不安定の方は、1~3ヶ月毎にモニタリングを実施しています。

・面接、職員からの聞き取り、観察等で評価しています。

・モニタリングの結果でサービス内容や目標に変更が必要な場合は、サービス担当者会議の開催、各種専門職への照会等を実施。再アセスメントを行い、ケアプラン原案を作成しています。

### 3-3 ユニットリーダー

(1) 目標「働きやすい環境づくりに努める」に対する評価・総括

・木の実、医務、ショート、特養の各部署のリーダーで、日頃の職員教育を中心に検討を行い、何でも話し合える関係性を築いています。

(2) 具体的取り組みに対する評価・結果

①毎月第4木曜日 リーダー会議を開催する

・毎月1回定期開催することが出来ました

②リーダー会議をリーダー同士の問題解決の糸口を見つける場にする

・上半期に比べ、下半期は各部署の問題点を話し合う時間を作り、1人1人違う職員にどのように接し、声を掛けたらよいか、今必要とされている知識や技術について話し合っています。問題解決までには至りませんでした。リーダー同士で助言を行い、解決の糸口を見つける場にする事が出来ました。

③他施設見学を計画・実施し、日頃のケア・知識を深める

・岩手県にある「花巻あすかの杜」へ見学に行き、他施設の職員と意見交換し、日ごろのケアの振り返り、リーダーの絆を深めています。

④研修生のレビューを担当し、リーダーとして成長する

・参加予定は決めていたが、参加することが出来ませんでした。

⑤リーダー会議の中で認知症の学習を行います。学習を基に施設全体に向けた認知症勉強会を9月に開催する

・坂病院認知症認定看護師：佐々木郁美様を外部講師に招き開催しています。職員から質問をまとめ、施設の事例を基に学習することで、身近な勉強会となり、参加率が高く、有意義な勉強会となっています。

⑥各部署の事業計画の進行状況を会議の場で確認し、振り返り・助言・修正を行う

・各部署の事業計画の進行状況を報告し合い振り返ることで、自部署の進行の確認や気づきに繋がりました。助言・修正については行うこと出来ませんでした。

⑦社会保障を学ぶ

・4月以降の介護保険改正を中心に学ぶことが出来ました。支払われる方の負担が大きくなることや、介護保険サービスを控えざる負えない方が自事業所にもいることを確認しています。

⑧施設の経営を理解する

・会議の中で事務職員が施設の経営報告を行うことで、施設の現状を確認し経費削減（水道光熱費の削減）につなげています。

## IV 各部署

### 4-1 食養

(1) 目標「最期の一口までおいしい食事提供を目指す」に対する評価・総括

・突然のお別れになる方、看取りに移行してお別れになる方等様々ですが、最後に口にされたものがその方にとって「おいしい」と感じてもらえる食事提供に努めました。答えはご

本人様にしか分かりませんが、これからも日頃から他職種との情報共有、小さな変化を見逃さず、その方に合った食事提供を目指します。

(2) 具体的取り組みに対する評価・結果

①食事委員会にセントラルキッチンも参加していただき、サテライトの生の声とニーズを伝えます。セントラルキッチン、風の音、田子のまちで定期的な献立会議を実施し、献立改善に努める

- ・セントラルキッチンとの連携を密にとり、メニューの重複や偏り、味のバラつきを改善するよう努めました。

- ・セントラルキッチン、田子のまち、風の音で計3回献立会議を開催し、意見交換を行いました。今年度は食事委員会に給食委託業者の栄養士が参加をするまでには至りませんでした。来年度は定期的に意見交換できる場を設けます。

②サービス担当者会議を活用し、他職種協働で入居者様やそのご家族の希望に沿った栄養ケアを行う

- ・サービス担当者会議他、他職種協働でこまめな意見交換を行い、入居者様やそのご家族の希望に沿った栄養ケアを行い、個々の状態に合わせた食事を提供しました。

③毎月の食養会議にて、厨房作業の効率化と衛生管理についての話し合い、定期的に食中毒や衛生に関する勉強会を行い、配膳ミスや異物混入、食中毒発生防止に努める。調理員も含め外部研修にも積極的に参加し、厨房業務に反映出来るよう努める。

- ・隔月の食養会議にて、厨房作業の効率化と衛生管理についての話し合い、配膳ミスや異物混入、食中毒発生防止に努めました。

- ・食事委員会と連携し、衛生管理マニュアルチェックと職員への意識付けが出来ました。
- ・食中毒勉強会はより多くの職員が参加できるよう、6月、7月に分けて2回開催しました。結果、食中毒事故は発生していません。

(3) 行事食報告 ※不定期でお楽しみおやつ提供（主に行事食のない月）

上半期	内 容	下半期	内 容
4月	花便り	10月	お月見
7月	七夕	12月	クリスマス、冬至（単品）、年越
8月	お盆（単品）	1月	正月
9月	敬老の日、お彼岸（単品）	2月	節分（単品）
		3月	ひな祭り、お彼岸（単品）

4-2 事務部門

(1) 目標「地域・入居者様・職員から頼られる事務職員を目指す」に対する評価・総括  
 ・職員の質問等には答える場面はありましたが、現場に直接入りながら、入居者様のニーズに応えられていたかどうか疑問が残ります。また、地域との関係では関わる機会をあまり持つことが出来ませんでした。

## (2) 具体的な取組みに対する評価・結果

①施設窓口として「事務は利用者様・ご家族様・他法人等と接する窓口であり、CS向上を意識した接遇を目指す」

・経理としては、利用料金の口座振替の際のミスが何度かありました。都度、謝罪し再発防止に向けて、予備資料の作成を行い、チェックの目を増やす取組みを行っております。

②職務知識の習得「自己職務知識の向上を図る。介護保険制度等について学習を行い、施設運営へ提案できるように努める。実務以外の職務知識についても学習を図る。」

・実務という点では、簿記検定のための学習を行っております。まだ3級検定の取得に至っていないため、継続して行っております。

・介護保険制度と実務以外の職務知識の学習については行えていませんでした。

③経営管理「経営について、職員に伝える。より身近な数字に置き換えての説明や分析、運営への提案などわかりやすい方法での報告を心掛ける」

・経営報告等、前任者に頼ってしまい、自ら経営報告を作成することが出来ませんでした。来年度は前任者に指導いただきながら、経営報告を行ってまいります。

④施設管理「設備・備品の老朽化に伴い、部署ごとに必要な修繕・設備交換を計画的に実施する。昨年度組めなかった施設修繕計画に着手する」

・設備・備品等、現場からの要望があった際に対応しましたが、計画的な修繕や、設備交換を行うことは出来ませんでした。

⑤運動の組織者として「社会保障運動や法人の取組みについて率先して参加するとともに、運動や取組みの意義を職員に周知することで職員の参加を促す」

・自ら積極的に参加することが出来ました。また「福祉ウェーブ」や「金発デモ」にも社会保障員会を中心に参加することが出来ました。

## 4-3 医務部門

(1) 目標「個々の生活に合わせて、安心して生活できるよう支援する」に対する評価・総括

・体調変化に留意し数値だけでなく、個別の状態を把握し健康管理に努めました。  
・看取り介護になられた入居者様には、今後予測される状態にも随時ご家族様、ユニット職員と相談しながら対応し、苦痛なく最期を迎えられるよう努めました。

## (2) 具体的取組みに対する評価・結果

①地域連携や他職種との情報の共有を図る

・ショートステイご利用の方のサービス担当者会議に参加し、ご利用中の発熱時や土日祭日の時の状態変化への対応などについて話し合い情報の共有を図る事ができました。

②他事業所とも連携しマニュアルを見直す

・他事業所とマニュアルを持ちより、話し合いを行いました。各事業所の構造や体制など違いが見直すまでに至りませんでした。

③研修に参加し自己研鑽に努める

- ・内部、外部の研修に参加する事ができました

④薬の管理を確実に行う

- ・ホワイトボードの転記ミス、薬が床に落ちていたが誰のいつのものか不明というミスなどあり、大きな事故はありませんでしたが、今後も薬の管理をしっかりと行っていきます。

⑤医務会議を月1回開催する

- ・実調や病院受診などで勤務の都合がつかず、2月を開催する事ができませんでした。

(3) 医務状況報告

- ・インフルエンザ予防接種 入居者と職員（11月の往診時に実施）
- ・定期健診 入居者（8月・9月は病院にて検査、3月施設で採血のみ）
- ・胃瘻交換 入居者（5月・10月・3月、往診時に実施）

#### 4-4 機能訓練

(1) 目標「個々の状態に合わせて身体機能が維持できるように支援する」に対する評価・総括

- ・急な状態の変化や看取りの方など、維持が難しく低下していく事が予想される方への支援も充実していけるよう取り組みが必要と思いました。
- ・機能訓練計画書の作成間隔の数え方に違いがあり、規定の間隔と違っていたため、現在は改善し今後も規定に沿った機能訓練計画書の作成・発行をしていきたいと思えます。

(2) 具体的取り組みに対する評価・結果

①他職種と連携し機能訓練をすすめていく

- ・現在のADLやできる事などユニット職員と話し合い、生活の中で無理なく行える機能訓練を連携協力し行う事ができました。

②日常生活の中で、機能訓練指導員として関わりをもっていく

- ・入居者様やご家族の希望や意向などを話し合い、可能な範囲で実行できるようにユニット職員と話し合い、姿勢なども専門の方の協力もあり改善してきています。今後も関わりを多く持ち機能訓練をすすめていきます。

③研修に参加し自己研鑽に努める

- ・研修の日程と場所などが合わずに参加できませんでしたが、今後も参加できるように情報収集に努めていきます。

#### 4-5 LAS（ライフアドバイザー事業）

(1) 目標「在宅で過ごされている高齢者世帯の方々に必要なサポートができるよう、利府町との連携を図る」に対する評価・総括

- ・利府町と連携を図りながら、葉山シルバーハウジング・町営住宅の高齢者世帯の方々の

相談に答えることができたと思います。しかし、入転居等の情報については、不明な部分もあり、連絡を取っていきたいと思います。

#### (2) 具体的取組に対する評価・結果

①毎週月～金（祝日を除く）葉山シルバーハウジングの訪問を行い、報告書を作成し町に提出する

・毎週訪問を行い、シルバーハウジングの入居者の安否確認、相談を受け、毎月利府町へ報告書を提出しています。

②毎月、石田・堀川・八幡崎・柚木住宅の訪問を行い、日誌を作成し町に提出する

・毎月定期的な訪問を行い、日誌を作成し、町へ報告を行ってしています。

③年4回、利府町、地域包括支援センターとのLSA会議に参加し、情報共有する

・3か月に1度LSA会議を開催し、利府町・地域包括支援センターとの情報共有を行ってしています。

④訪問時、介護保険や生活保護等の相談があるため、適切なサービスに結び付けられるよう、自己研鑽する

・問時、相談を受けたことに関して、その場で答えられないことに関しては、町へ確認し、後日返答を行ってしています。しかし、自己研鑽という部分では、行っていなかったと思います。今後、自分から介護保険や生活保護等について勉強し、入居者に情報を伝えることが出来るよう努力します。

### 4-6 ボランティアコーディネーター

#### (1) 目標に対する評価・総括

今年のボランティアの延べ人数は1340人でした。年々ボランティアの来所数も増えてはいます。また、個人ボランティア同士の交流も生まれ、輪も広がっています。ボランティア側は活動に意欲的ですが、職員の受け入れが消極的です。理由としては、どう活用していいのかわからない、自分たちの余裕がない等の意見が聞かれています。

職員の不安も取り除き、ボランティアを受容れる意味など伝えて行きたいと思います。また、職員だけではなく、ボランティアのスキルアップも図って行きたいと思います。

#### (2) 具体的な取り組みに対する評価・結果

①毎月風の音だよりを発行する

・毎月定期的に発行し、地域へイベントの開催など発信してしています。

②地域活動への呼掛けする

・清掃活動、町内会夏祭り、廃品回収等地域活動に、職員へ呼掛けをし、共に活動に参加してしています。

③勉強会の開催

・ボランティア委員会と協力しながら、勉強会を開催しました。ボランティアについて、委員会内での勉強会も開催し、職員の疑問や不安に思っていること等も答えられるようにし

ていきたいと思ひます。

④ボランティアの募集を行う

・各学校への募集を行いましたが、実際に、風の音まつりのボランティアのみで、学生その後の継続的なボランティアはありませんでした。しかし、退職後のボランティアの人数は増えています。ボランティア同士のつながりもでき、ボランティア後に交流している方もいます。

⑤マニュアルの見直しを行う

・ボランティア委員会と協力し、ボランティアマニュアルの見直しを行う予定でしたが、勉強会や行事などの話し合いで話し合う時間が設けられず、行うことが出来ませんでした。来年度にも職員側の意見も取り入れ、マニュアルの見直しを行いたいと思ひます。

V ご要望・苦情に関して

各事案に関しましては、多職種と検討しその都度対策を申し合わせ、全体で周知しています。それぞれ頂いたお言葉を真摯に受け止め、再発防止に努めて参ります。

番号	受付日	ご要望・苦情等の概要	苦情改善の概要	第三者委員
1	H27年 4月21日	ショートステイ利用し帰宅後、肌着したズボンを着用していなかった。靴に肌着が湿った状態で乱雑に入っていた	利用者ご自身ができることもあり、任せてしまう事が多く、最終確認を忘れてしまった。荷物や身なりの最終確認は勿論、普段よりご本人が行ったことを確認する。	参加 不参加
2	H27年 5月21日	ショートステイから戻ると、靴に契約書等が入っていた。家族に説明なく、説明したとされる職員にも会ったことはない。	契約書や重要事項説明書については、予めご家族とどのような受け渡しをするのかを決めておく。	参加 不参加
3	H27年 5月28日	ショートステイ利用し帰宅後、靴にパジャマが乱雑に入っていた。外履きがあるのに内履きで帰ってきた。	まとめていた荷物をご利用者自身が乱雑にしてしまうため、衣類の入ったバッグは別な場所でお預かりする。同様に靴もご自身で履き替えてしまうため、最終は玄関で履き替え確認を行う。	参加 不参加
4	H27年 7月10日	デイサービスお迎えの際、職員の対応が悪かった。	インターホン対応時の対応、ご家族が出て来られた時の対応、出て来られなかった時の対応についてそれぞれケア方法を統一する。	参加 不参加

5	H27年 7月13日	職員の返事が聞こえない。	夜間帯やマスクの着用の際には、ご利用者に聞こえる声の大きさに応対する。	参加 <input type="checkbox"/> 不参加
6	H27年 7月21日	退院直後のショート利用の際、食事介助の方法が申し送りとは違って介助されていた。	や状態に著しい変化があった場合はケアマネをご家族に確認を行う。	参加 <input type="checkbox"/> 不参加
7	H27年 8月7日	特養入居者のご家族が、散歩中にデイサービスの七夕行事に参加を希望したが断られた。	言葉の行き違いがあったこと、普段から施設のことをとても気にかけて下さっていることを理解し謝罪を行い、気持ちを静めて頂いた。特養とデイは事業所が違うことの説明も併せて行った。	参加 <input type="checkbox"/> 不参加
8	H28年 1月 22日	特養入居者の介護認定更新調査時、担当した職員の対応が不快だった。 要介護度が3から5になった。	入居後間もない調査の際は、ご家族にもご自宅での状況を聞き取りする時間を設けるよう調査員に伝える。話す内容は言葉を選んでお伝えする。	参加 <input type="checkbox"/> 不参加

\*問い合わせ相談等、窓口や電話の初期対応により解決した案件を除く。

\*半期に1回(9月、3月)に法人本部 苦情受付担当者を通じ、法人本部苦情解決責任者及び第三者苦情処理委員へ報告。

## VI 年度内活動報告一覧

	施設	委員会
4月	辞令交付 避難訓練	入居判定委員会、捜索訓練(事対) 多賀城特養建設準備委員会
5月	ご家族向け事業報告会 共済会運動会	ボランティア受入勉強会(ボラ) 多賀城特養建設準備委員会
6月	粗大ごみ回収 デイ運動会	ふれあいまつり実行委員会 財政活動、平和行進(社保) 食中毒予防について(食事) 多賀城特養建設準備委員会
7月	職員検診、県連学運交、共済会総会 法人デイ事業所会議、法人後援会 ユニットリーダー研修実地研修施設更新 調査	ふれあいまつり実行委員会 多賀城特養建設準備委員会 財政活動、原水禁壮行会(社保) 身体拘束廃止勉強会(身拘)
8月	第10回風の音ふれあいまつり 杜の風見学 補正予算討議、法人後援会	ふれあいまつり実行委員会 ターミナルについて(安衛) 多賀城特養建設準備委員会
9月	鶴岡市おおやま見学、敬老お祝い会 法人デイ事業所会議 全職会議(中間報告会)	財政活動(社保)、マイナンバー学習会 認知症勉強会(リーダー)、入居判定委員会、 多賀城建設準備委員会
10月	避難訓練、花巻あすかの杜見学 県議選不在者投票、ベガ号 消防署打合せ、多賀城特養引渡 特養指導監査	捜索訓練(事対) 入居判定委員会 感染予防勉強会(感染)
11月	利府消防署立会夜間検証 法人後援会、利府中学校キャリアシッ 福祉ウェブ	ボランティア交流会(ボラ) リスクマネジメント勉強会(事対) 財政活動(社保)、カフェ(食事)
12月	法人デイ事業所会議 オペラコンサート、多賀城鍵受取	福祉まちづくり住民の会役員会
1月	お茶会、税理士監査、国会要請行動 多賀城特養入居申込開始	レスキューシート使用法勉強会(事対) 下馬デモ(社保)
2月	法人デイ事業所会議、ユニット費交渉 風の音サテライト史開所式	入居判定委員会 ターミナル勉強会(安衛)
3月	全職会議、給食業者デモ	入居判定委員会

	地域	見学等・ボランティア	その他
4月	葉山保育園入園式 シニアソフトボール開会式 福祉まちづくり住民の会役員会 葉山町内会総会、利府町 LSA 会議・地域包括ケア会議	坂病院新入職員 60 名程度 ボランティア来所数 104 名	ユニットケア関係者連絡会(東京)
5月	福祉まちづくり住民の会役員会・総会 松島町地域包括ケア会議	坂病院友の会 7 名 ボランティア来所数 144 名	
6月	町内会清掃活動、廃品回収 福祉まちづくり住民の会役員会	七ヶ浜結の会 10 名 ボランティア来所数 109 名	リーダー研修計 23 名
7月	福祉まちづくり住民の会役員会 医療介護連携会議 七ヶ浜町ケアマネ連絡会 利府町 LSA 会議	(有)ベルドール 8 名 セントラルキッチン 14 名 つばさ薬局学生 5 名 ボランティア来所数 154 名	
8月	町内会夏祭り、地区老協総会 福祉まちづくり住民の会役員会	聖和短大 2 名 リーダー研修 24 名 ボランティア来所数 113 名	福祉系学校訪問 ユニットリーダー研修座学(仙台)
9月	福祉まちづくり住民の会役員会 町内会清掃活動	坂病院友の会 12 名 ボランティア来所数 112 名	
10月	福祉まちづくり住民の会役員会 利府町 LSA 会議 地区老協幹事会	丸森施設 4 名 ボランティア 114 名	ユニットケア関係者連絡会(東京)
11月	地区老協合同防災訓練 福祉まちづくり住民の会役員会 利府吹奏楽団公演、21 老福連集会	つばさ薬局学生 6 名 山形たかはた荘 6 名 ボランティア来所数 116 名	東北ブロックフォーアアップ研修(盛岡)
12月		東北大 3 名、他施設 2 名 ボランティア来所数 133 名	リーダー研修 21 名
1月	福祉まちづくり住民の会役員会 利府町 LSA 会議	ボランティア来所数 93 名	
2月	福祉まちづくり住民の会役員会 利府町議との懇談	民医連関係 6 名 ボランティア来所数 83 名	
3月	福祉まちづくり住民の会役員会 地区老協連絡会 葉山保育園卒園式	塩釜社協 19 名 古川てとてから子ども達 ボランティア来所数 86 名	全日本民医連総会 県連介護職確保推進会議

## デイサービスセンターくりこまの里

### I 事業規模

#### 1. 各月ごとの利用者数と収入

##### 1) デイサービス I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	585	703	631	676	615	681	689	607	605	551	564	597
利用者／日	22.5	26.0	25.2	25.0	23.7	26.2	25.5	24.3	23.3	23.0	23.5	23.0
利用率	75.0	86.8	84.1	83.5	78.8	87.3	85.1	80.9	77.6	76.5	78.3	76.5
収入(千円)	5,528	5,976	5,574	5,847	5,624	6,240	6,262	5,675	5,594	5,164	5,257	5,559
利用者実数	72	72	70	74	77	80	76	75	72	73	68	72

##### 2) デイサービス II

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
利用者実績数	184	191	192	180	169	177	173	186	185	170	162	195
利用者／日	7.1	7.1	7.7	6.7	6.5	6.8	6.4	7.4	7.1	7.1	6.8	7.5
利用率	59.0	59.0	64.0	55.6	54.2	56.7	53.4	62.0	59.3	59.0	56.3	62.5
収入(千円)	2,472	2,431	2,478	2,300	2,253	2,403	2,345	2,554	2,539	2,337	2,235	2,702
利用者実数	19	19	22	20	20	21	22	23	24	20	20	22

##### 3) 居宅介護事業所(支援含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入(千円)	774	680	646	672	620	593	671	633	671	485	498	515
利用者実数	66	58	55	57	53	51	57	54	57	43	44	45

## 2. 職員体制 2015年4月～2016年3月

	正規職員	契約職員	パート・嘱託・登録	合計	病休	産休	育休	退職	入職
施設長兼相談員	1			1					
生活相談員	2			2					
相談員兼看護師	1			1					
介護員	3	2	5	10					1
准看護師	1			1					
栄養士兼介護員	1			1					
調理員兼介護員			1	1					
介護支援専門員兼相談員	1			1					
介護支援専門員	2			1				1	1
事務員	1			1					
計	13	2	6	21				1	1

## II. 各事業所・部門別

### 1. デイサービスセンターくりこまの里 I

#### 1) 利用者動向

##### ① 年度ごとの比較(平均)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
利用率(%)	12.8	42.1	62.1	72.7	83.2	76.2	84.6	83.7	80.9	78.5
1日当たりの利用者	2.6	8.4	12.4	13.4	16.6	18.7	21.2	23.3	24.3	23.6

② サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	2	3	1	5	2	4	1	1	4	3	1	4	31
サービス利用終了者数	1	3		2	1	1	1	3	5	1	2		28

③ サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入所・入院	認知症型移行	他のデ イに	転居	不調	シヨ ト中心 に	その他	合計
人数	9	6	2	0	1	0	0	4	22

④ 要介護度別利用者数（年間）

	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5	
利用人数	9	298	10	718	27	2468	13	2303	6	914	4	356	2	340
割合 (%)	12.6	4	14	9.7	38	33.3	18.3	31.1	8.4	12.3	5.6	4.8	2.8	4.5

右は延べ人数 左は実人数

<具体的取り組み>

① 過ごしたい部屋・行いたい活動が選択できるよう「こま」「里」の2フロアそれぞれの活動計画を立てて、実施していきます。

- ・2フロアでの活動計画を毎月立て、実施する事が出来ています。活動予定表を見て楽しみにして来られる方もおりました。朝の挨拶で本日の活動を紹介する他、午後にも活動の紹介をし、好きな活動に参加できるように勤めてきました。利用者様が自己選択できるようになってきています。しかし、声かけの不足、職員体制に左右されることもあり、更なる検討が必要です。

② 月一回のケースカンファレンスを開催し、情報共有の場を設けます。また、対応策についてはケースに記録し、評価していきます。

- ・月1回のケースカンファレンスの開催を実施する事が出来ています。カンファレンス内容の周知は以前よりも意識はされてきました。しかし、解決策の対応を実際に行ってもケース記録に落とされていない事が多くありました。その為、カンファレンスシートをミーティング版にて掲示し内容の周知、周知後はケースファイルにファイルし、見やすくするなどの工夫を行なっています。まだ、実施内容についての記録にバラつきが見られており、思うように評価へ繋がられていない事もありました。今後は更なる職

員の意識向上が必要です。

③11月に家族が参加できるイベント（芋煮交流会）を開催し、デイサービスの様子を見て頂く機会を設けます。家族との交流を通し、家族のニーズの把握にも努めます。

・11月に芋煮交流会を開催致しています。しかし、ご家族様の参加がありませんでした。家族にアンケートをとるなどし、ニーズを把握し検討していく必要があります。

## 2. デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ（認知症対応型・地域密着型）

### ① 年度毎

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
利用率 (%)	6.	12.5	27.5	37.9	51.9	63.9	69.6	63.8	58.4	51.0
1日あたりの利用者	0.7	1.5	3.3	4.6	6.2	7.7	8.3	7.1	7	6.1

### ② サービス利用開始 終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	0	0	2	1	1	2	1	0	1	1	3	1	13
サービス利用終了者数	0	0	2	2	0	0	3	0	1	1	1	1	11

### ③ 利用終了理由

理由	死亡	施設入所・入院	通常型デイ	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	3	7	0	0	0	1	11

### ④ 要介護度別利用者数（年間）

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
利用人数					11	346	11	756	9	442	9	325	2	54
割合%					25.6	18	25.6	39.3	22	22.9	22	16.9	4.8	2.8

右は延べ人数 左は実人数

#### <方針>

- ・認知症の利用者様が安心して過ごせるケア・環境をつくって行きます。
- ・利用者様の情報収集・共有を行うことで統一したケアを実施します。

#### <具体的取り組み>

①ご利用者様の情報を整理・見直しを行いお一人おひとりの個性に合わせた対応を検討していきます。

- ・デイサービスでの細かい（認知症状の部分）変化や気づきを、ケース記録に残すことは出来てきています。しかし、まだ職員により視点の違いがあり、観察の視点について学習が必要です。その為、個別に合わせた対応は十分にできませんでした。
- ・不穏な方への対応に集中してしまい、他の利用者様への配慮が行き届かず、個別ケアが実践できない現状がありました。

②フロア内の環境を見直し、認知症の方が落ち着いて過ごせる環境を検討していきます。

- ・定期会議時にフロア内の環境面について改善が必要な部分を確認し対策していきました。認知症の方の環境としてはまだまだ課題は大きいです。

③①②を実施するために日々の記録の見直し、記載方法・様式を検討していきます。その記録をカンファレンスに繋げていきます。また、認知症についての学習会を定期的に行っていきます。

- ・生活シート（ADL表）を活用し、ADL、認知症状の確認を行いカンファレンスに繋げることが出来ました。
- ・記録については、認知症状に対しての行動、発言、様子などを意識して記録に繋げることが出来ました。
- ・学習会は12月、1月に実施することが出来ました。

④おやつ作りなど利用者様が楽しんで行える活動を企画し、その利用者様が維持している機能を活用できるよう取り組みます。

- ・昔から慣れ親しんだ家事動作が継続できるよう、日々の活動の中におやつ作りや、はつと作りを取り入れ利用者様と協力し楽しみながら活動することが出来ました。

#### 相談員

①ケアマネジャーにお試し利用、新規初回利用、利用者の特変状況の報告をし、連携を強化していきます。

- ・利用者様の様子や特変の状況などの情報提供を行いました。ケアマネジャーと連携の強化に努める事が出来ました。

②ケアマネジャーへの連絡基準を明確にし、マニュアルを作成し正確な情報の提供を行っていきます。

- ・連絡基準のマニュアルを作成しました。しかし、一部の相談員のための周知となり、周知が必要な職員への周知徹底できませんでした。今後は、周知の徹底を行っていく必

要があります。

③ケアマネジャーに気軽に足を運んで頂けるような場を職員全体で企画し、取り組んでいきます。

- ・毎月、行事予定を配布し施設の取り組みを伝えることができたが、来訪して頂く事はできませんでした。来年度は、月行事予定と一緒にケアマネジャー宛にメッセージやコメントを入れ来て頂けるように工夫が必要であります。また、地域の方々との交流の機会も設け、風通しの良い施設を目指していきます。

④利用者様一人ひとりのデイサービスでの様子を、より細かく記録できるように職員へ指導していきます。そのことによりケース記録の充実を図り、モニタリングへ活かしていきます。

- ・記録の書き方には個人差がありました。それぞれで気づいていることがあるようですが、記録に残すことができていません。また、書き方にも個人の領域の差が目立ちました。そのため、モニタリングに活かすことができませんでした。来年度は、スタッフ会議で短時間の勉強会を開催し記録の充実を図ります。

⑤ケアマネジャーのニーズを把握するためにアンケートを実施します（モニタリング、活動等）

- ・今年度は実施できませんでした。

⑥実績の確認は相談員2人で行い、ミスのないように努めます。

- ・ワイズマンを活用することでミスなく請求することができました。

⑦連絡帳の充実を図るために利用者様一人一人の利用時の様子を把握、情報収集を行っていきます。

- ・身体状況は、入浴担当職員や医務職員からの情報を連絡帳に記入することができました。

午後からの様子や体調の変化は、帰りの送迎時、口頭で家族に伝えております。連絡帳を通して自宅での様子や体調の変化を記入してくれるご家族様もおります。

## 介護職

①活動内容を充実し、利用者様にご自分のご希望で選択できるようにします。

- ・くり、こま、里での活動内容は充実しており、それに合わせて利用者様が自分の希望で選択することができました。

②「くり・こま・里」の各部屋での活動を把握し、全ての利用者様の対応が行えるように、当日の担当職員を決めて支援していきます。

- ・誰にでも分かるように里フロアのカレンダーに1ヵ月分の里の行事を記入する事により、担当になった職員が忘れることなく活動することができました。

③レクリエーションや脳トレ等の活動内容が把握しやすいように、各部屋のレク記録を活用し、皆様に楽しんで頂けるよう努めます。

- ・レクリエーション終了後にレク記録の記入を意識する事で記入漏れは少なくなりました。しかし、まだ忘れることがあります。こまも忘れる事が多いので、意識して記入していきます。
- ④お風呂場でも季節感のある飾り付けや毎月の行事湯を企画して、雰囲気を楽しんで頂けるようにします。
  - ・お風呂場に春夏秋冬の飾りつけをする事で、雰囲気が変わり利用者様にも喜んで頂く事が出来ました。行事湯のバスクリン湯は、毎回好評で毎日入れてほしいとの要望も聞かれました。26日のお風呂の日は生花を入れる事で季節感を感じる事が出来ました。また、お花を用意出来ない月もあり、その際はお茶湯で対応しています。
- ⑤ミーティング版を出勤時に確認し、ケア変更があった場合はケース記録とミーティング版に記入する事で、利用者様の情報の把握や対応の統一を図り、より良いケアへ繋げていきます。
  - ・ミーティング版に記入する事で利用者様の情報の把握や職員間の統一事項を周知する事が出来ました。ミーティング版にケア変更、様子などの特記事項が記入されていた場合は、ケースに確実に記録として残したのが分かるように記入後は、氏名欄に印を付け分かるようにしました。
- ⑥月1回の介護職会議を実施し、会議の前に司会者は方針を読み上げ確認を行います。
  - ・介護職会議の前に司会が方針を読みあげて確認を行っています。

## 医務部門

<具体的な取り組み>

- ①ご家庭での様子や医療情報を把握し、デイサービスでの健康観察に役立てていきます。また、家族との連携を深め、特変事に適切に対応できるようにします。
  - ・疑問に思った時には、家庭での様子を聞き家族との連携を深め、特変時に対応できるように努めました。
- ②介護職と連携し運動を実施していきます。又、ご利用者様、家族の要望に応じ歩行訓練など個別な運動にも対応していきます。
  - ・体制の変更などにより機能訓練の算定をやめています。運動の維持の指示は出ていましたが、対策が追いつかず前年度に比べ、運動などの質を低下させるようになっていました。下半期からは介護職と連携を図り、計画的に運動を取り入れるようになっていきます。
- ③季節に合わせ感染についての勉強会を実施し、啓発していきます。また、感染予防対策を実践していきます。
  - ・学習会（ノロウイルス、インフルエンザ）を2回実施し、感染予防対策として啓発に努めました。
- ④医務職同士の連携を図り、統一した支援を行っています。
  - ・ケース記録で処置方法等記録をしっかりと行い極力統一した支援が出来るように勤めて

います。しかし、処置方法や医務としての動きに違いがあり、更なる連携が必要です。

## 食養部門

- ①カウンターを利用し、利用者様の目の前での料理を企画し食事の楽しみをつくります。新しいメニュー、食事の提供方法を取り入れていきます。食養の業務の見直しも行っていきます。
- ・カウンターを利用し、そば打ち、いか、焼きそば、すしを握るなどを企画しました。献立についても工夫を凝らすようにしてきました。しかし、現場からの意見を思うように入り入れられなかったことがありました。食養としての対応については反省点が残りました。
- ②食事のアンケートを取り、利用者様の要望を取り入れた献立作りを行います。嗜好調査表の作成をし、一人ひとりの嗜好、状態にあった食事の提供を目指します。
- ・利用者様一人一人にアンケートを聞き取り要望に合わせて献立に入れましたまた嗜好調査表で味噌汁が少ないと話す利用者様が多く味噌汁の量を増やしました。
- ③会議では様々な職種の方の意見を聞き食事提供に役立てます。また食事の様子を観察し味付けや形態を検討します。
- ・食養会議を通し様々な職種の方の意見を聞きました。また必要に応じて新規の利用者様や退院してきた利用者様の状態を相談員と話し合い食事の提供に役立てました。
- ④食中毒をおこすことがないよう衛生管理を行っていきます。
- ・食中毒の発生はありませんでした。
- ※職員体制、食単価などの事情により、2016年度は業務委託を検討しています。

## 公益部門

### 1 指定居宅介護支援事業所

#### 1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	0	1	1	1	2	0	3	1	6	3	2	1
支援終了数	0	1	1	3	2	0	1	3	13	2	1	2

#### 支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為					1			3	3	1	1	2
入所		1	1	3	1		1			1		
他事業所利用									10			

その他：転居 1

- ①研修への参加を通し、介護保険情報を周知していきます。
  - ・県や市、ケアマネ協会や地域での研修には積極的に参加することが出来ています。研修で得た情報については事業所内で伝達し、業務にいかしています。
- ②個別ニーズを支援できるよう、関係事業所との連携を強化します。
  - ・利用者様、家族の対話を大切にし、適切にニーズが把握できるように努めています。関係事業所とは必要な情報を連絡、書面などで伝えています。また、提供票の配布時にも情報交換し、担当者との関係づくりに努めています。
- ③ご利用者、家族との信頼関係をつくり、在宅生活の支援者として適切な業務遂行を行います。
  - ・訪問時は家族様が話しやすいように、各過程の状況、利用者様・家族の個性にあわせ対応しています。また、訪問時間など家族の都合に合わせて、顔を合わせ信頼関係が築けるように努めています。家族からの急な要望にも、優先順位を整理し応えられるようにしています。
- ④事業所内、併設施設との協力体制を強化していきます。
  - ・くりこまの里のデイサービスとはこまめに情報交換を行うことで協力体制を築いています。情報交換は書面なども活用し、確実に伝達できるようにしています。会議への参加、会議録の周知により経営状況を把握し、運営、経営面でも協力体制を築いています。

### Ⅲ 委員会

#### 社会保障委員会

- ①委員会を定例で行います
  - ・毎月、会議を行い法人社会保障委員会等の報告をもらい情報交換を行いました。
- ②内部にて社会保障の研修会を定期的で開催し、社会保障についての理解を深めます
  - ・毎月の会議の中で社会情勢や社会保障の動きについて新聞記事を取り入れ読み合わせなどを行いました。
- ③外部からの講師を招き、年2回（6月、11月）に社会保障についての勉強会を開催します
  - ・6月に本部の榎財務部長を招き、「社会保障とは」という新入職員へ向けての勉強会を行いました。その後の勉強会は「社会保障」という漠然としたテーマだった為内容がしぼりきらず行う事まで至りませんでした。今後はテーマをしっかりと決める事とします。
- ④国会要請行動に職員を派遣します

- ・施設長以外の他職員は参加しませんでした。
- ⑤毎月 1 回財政活動の一環として工房歩歩の商品を購入します。また、季節商品の購入を行います。
- ・毎月、職員個人の分や行事に使用する商品を購入できました。
- ⑥署名活動は署名毎に担当者を決め集めていきます。署名を集める範囲を広げられるように努力してきます。
- ・署名は職員や家族の協力のもと集めることが出来ました。署名の協力を依頼できる業者などの開拓を行なうことができませんでした。
- ⑦カンパ活動を行ない、社会保障活動を広めていきます。
- ・カンパ活動は毎月行なうことができました。メニューも様々なものに挑戦し、職員が楽しく活動に参加できるように努めることが出来ました。

## 環境

- ①花植えや野菜作りは年間計画をもとに利用者様と一緒に活動していきます。
- ・年間計画を利用し、花植えや野菜作りを利用者様と一緒に行うことが出来ています。
- ②施設内外の環境整備（送迎車も含む）は計画性を持ち職員協力のもと進めていきます。
- ・送迎車の清掃を担当制にすることで、責任を持って行なうことができています。除草作業についても声がけ、掲示による通知により職員で取り組むことが出来ています。
- ③施設内の飾りつけ、壁画等のせいをしを行い、季節に合わせた環境を整えていきます。
- ・その月ごとの合わせた壁画や創作したものを飾りつけている事ができています。施設内の整理に関しては声がけの不足や内容が漠然としており、委員会では取り組むことが出来ましたが、全職員で取り組むとまではいきませんでした。

## リスクマネジメント委員会

### < 事故対策 >

- ①事故発生後、速やかに事故対策会議を開き、事故原因を分析し再発防止策を検討します。
- 防止策実施後の評価を行ない、継続的な対応、情報の共有化を図ります。
- ・1 週間以内に事故対策会議を行う事になっていましたが、自分の手元に何件も溜まってから委員に声を掛け検討することがありました。時間を作り担当が声をかけ検討会議を随時開催していく必要がありました。
- ・防止策実施後の評価は、出来ておらず継続的な対応に繋がっていません。
- ②インシデントの提出を声掛けし、事故予測に努めます。またインシデント強化月間を年 2 回実施し必要性について理解を深めていきます。同じ事例が複数提出されているインシデントは要因を分析し、重大な事故に繋がらないよう努めていきます。
- ・インシデントの提出の声掛け不足でした。強化月間を設けることにより提出は増えてい

ます。しかし、継続的に提出してもらうことが難しかったです。職員の日々の発言などから記録へつなげるように声を掛けていく必要があります。

- ・インシデントの提出が少ない月はアクシデントが増加していました。また、同じ利用者様でインシデントの提出枚数が多い方の対策・検討が行えていませんでした。機械的に検討会議を行なうようになっていたために、事故再発防止への意識が薄くなっていたことが原因と考えています。

③月 1 回（月初めに）福祉用具の点検を行ない、故障がある場合早急に修理し、安全に利用できるようにします。

- ・毎月担当を決め、福祉用具の点検が実施できています。異常があった際は、施設長へ報告し職員全体へもミーティングを通して周知できています。修繕なども速やかに行なうことができています。

④外部研修に参加し情報を収集することで知識を深め、内部研修に役立てます。

- ・職員が身体拘束、事故対策への研修に参加できています。内部研修も計画的に行なえています。

⑤月 1 回危険個所の確認を行ない、施設内の環境を整え事故防止に努めていきます。

- ・月 1 回、福祉用具点検と同じ日に危険箇所の点検を行なう事が出来ています。インシデントで提出された環境面で修繕、改善が必要な所を委員で再度確認後、施設長に報告し修繕、改善することが出来ています。

#### <身体拘束>

①内部研修を行ない、身体拘束は虐待であることを全職員が理解します。職員間で疑わしい行為があった際は、話し合い理解を深めていきます。

- ・内部研修を行い、身体拘束について学習することが出来ています。

②連絡帳や送迎での家族の様子に気を配り、初期段階でアプローチができるように努めます。ご利用者様の発言や身体状況にも気を付け、兆候を見逃さないようにしていきます。

- ・ご利用者様の発言や入浴時、身体状況を確認し、兆候を見逃さないよう対応が出来ています。また、職員全体への周知も行えています。
- ・ご家族様に相談を受けた際は、話を傾聴し自分で判断せず相談員・職責に相談しています。また、施設長からの指示をもらうことが出来ています。

#### 統計

ひやりはっと 226 件

事故報告 117 件

内約 怪我・転倒 22 誤薬 2 異食 4 車両事故 8 その他 56

大きな事故としては骨折事故がありました。その他事故の割合が多く、送迎でのミス、バイタルミスなど軽微な事故が多く見られています。

## 広報（ボランティア・広報）

- ①毎月ボランティアが来訪できるように調整を行っていきます。また、曜日や時間などの調整も行っています。
  - ・同じ曜日が続かないように調整を行う事で、皆様にボランティアの来訪を楽しんで頂きました。又、ボランティアの皆様が早く到着し、待たせてしまう場面や、内容の把握が出来ておらず、慌ただしくなられた事もありました。その為、「受付用紙」を作成し、来て頂いた際の注意事項や流れ等を正確に伝え、準備が出来るようにしました。ボランティアの方にも、こちらの状況等を理解して頂く事で、月に2回を目安にボランティアをお呼びする事も出来、皆様に交流や楽しみへ繋げる事が出来ました。
- ②年度末に広報誌を作成し、くりこまの里の活動を宣伝していきます。
  - ・作成途中ですが、年間で計画を立てながら、会議の中で話し合いを設け作成をしてきました。他の部署へも協力を頂きながら、「くりこまの里」を更に知って頂けるような内容になるよう努めております。
- ③近隣の学校関係へ慰問・交流のアプローチを行っていき学生、子供との触れ合う機会をつくります。また、学生が福祉の道を志せる機会に繋げていきます。
  - ・保育園や小中学生、高校生の皆様が来られ、交流の機会となられております。毎年連絡を取り合う事で、先方からも慰問や交流のお話が増えてきておりました。中学生の皆様には、職場体験で来て頂き「くりこまの里」の雰囲気や利用者様との交流の中で、福祉について考えて頂ける機会となりました。
- ④地域の清掃活動などに参加し、施設が地域の中で役割が持てるように努めます。
  - ・地域の清掃活動は時間帯等が合わず行えませんでした。くりこまの里と地区の集会場で防災訓練が行われました。利用者様や職員、地区の皆様で炊き出し訓練を行い、集会場では職員が参加し火災訓練が行われました。地域の方と協力して行う事が出来ました。

## IV 研修

### 1) 外部研修

6月	病院食について	2名参加
7月	介護予防ケアマネジメント	2名参加
	コーチング研修	2名参加
10月	高齢者虐待	3名参加
	介護職のためのストマー研修	1名参加
	ボランティアコーディネーター	2名参加
12月	リスマネジメント研修	1名参加
	アルコール依存支援	1名参加
2.3月	キャラバンメイト研修	2名参加

## 2) 法人・県連関係

6月	2年目研修	3名参加
8月	4年目研修	1名参加
9月	法人学習会	12名参加
10月	半年研修	2名参加
	施設見学（県連）	2名参加

## 3) その他

11月	21 老福連交流集会	3名参加
-----	------------	------

## V 苦情

苦情 3件

・職員 1件      ・介護 1件      ・その他 1件

苦情については申し入れについて対策を施し、すべて解決しております。

## VI くりはら健康福祉友の会活動

友の会主催の学習会への参加、総会などへ参加し意見交換、交流を図っています。その他、指定廃棄物処理場建設への反対の運動も市内の団体と行なってきました。

## VII 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。
- ・大鳥地区と合同の防災訓練を実施しました。
- ・防火設備点検を、定期に実施しました。

## 介護老人福祉施設 田子のまち

2015年は介護保険制度と介護報酬の同時改定となり、とても慌ただしい1年間となりました。報酬改定の影響で経営的にも心配されましたが、公休を月1日減らし、光熱水費や事業費などの経費削減に努め、経営改善に向けて法人全体として取り組んできました。職員の努力の成果として法人全体で黒字決算とすることができました。

制度改正により、特養の入居要件を原則要介護3以上となり、入居待機者名簿を整理しました。8月時点で要介護1と要介護2で待機者リストに登録されている176名に、入居要件の変更と施設利用料金の改正についてのお知らせをしてご理解を頂いています。その後、入居申込をしてから2年以上待機の状況となっている方280名に、現況と申込継続の意思確認をさせて頂きました。その結果、120名が現在は入居の意思がないとのことでした。新規入居者選考過程で、制度改正により利用料金の負担限度額認定がされないことで入居を辞退されるケースが7件ありました。3月末日の待機者数は245名です。

4月には感染泉胃腸炎の施設内集団感染がありました。嘱託医や協力病院、保健所からの指導のもと対策を講じ対応してきました。このことを教訓として感染管理について徹底していきます。大きな事故として、入浴用のストレッチャーからの転落、転倒による骨折がありました。施設全体の問題として対策を講じ、全職員で事故防止に努めてまいります。

職員の状況も入れ替わりが激しく落ち着かない1年となってしまいました。退職者も多く、入職しても数ヶ月で辞めてしまう職員もおり定着が困難となりました。ショートステイの稼働を抑え対応しております。法人内の全事業所においても同様の状況です。介護職員確保について様々な取り組みをしてきましたが結果にはつながりませんでした。2016年4月開所の多賀城市地域密着型特養(29床)も1ユニット閉鎖している状況です。

職員確保と育成、働き続けられる職場づくりが早急に解決すべき課題として受け止め、介護事業所全体として取り組んでいきます。

### 【2015年度稼働率・介護度】

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
91.7	91.9	94.7	95.1	94.9	94.4	92.0	94.6	93.1	94.2	97.3	97.3
3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5

### 【要介護度別】

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
------	------	------	------	------

4名	15名	15名	29名	28名
----	-----	-----	-----	-----

【保険者別】

仙台市	多賀城市	塩釜市	柴田町	利府町	七ヶ浜町	富岡町	葛城市
73名	6名	7名	1名	1名	1名	1名	1名

【性別・平均年齢】

	人数	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男性	21名	78.1歳	66歳	94歳
女性	70名	86.6歳	57歳	103歳
計	91名	85.0歳		

【入退居状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	1	1	1	2	1	1	1	1	0	2	1	1
退居	1	2	2	0	1	2	0	2	1	0	0	0

施設介護支援専門員

バックグラウンドアセスメントを整理し、入居前にご家族にバックグラウンドアセスメントの記入を依頼することで、入居前からその方の人となりを知ることが出来るツールの一つ増やすことが出来ました。ケアプランについても、各専門職の協力をもらいながら、その方らしさが反映されたものになって思います。しかし人員不足や異動などで現場が混乱し、ケアマネ自身もケアプランがケアの根拠になるものだと理解してもらえないような働きかけをすることが出来ませんでした。さらにケアプランと記録が連動していない、薄い記録になってしまうことが多く見られました。来年度は目標に対する成果として記録を残していけるよう、職員への呼びかけを行ってまいります。また、ケアプラン更新時のサービス担当者会議開催を円滑に進めることも来年度の大きな課題となると思います。各専門職の協力を仰ぎながら、確実に、かつ円滑に会議を進め、入居者様を支えるケアの指針となるケアプランを作成してまいります。

2015年度取り組み

- ① 介護保険の更新申請を、仙台市 30 名、塩竈市 4 名、柴田町 1 名、他県保険者 2 名の計 37 名行い、そのうち仙台市と他県保険者合わせて 32 名については保険者より委託を受けて認定調査を行いました。状態変化に合わせての区分変更の申請も年間を通し 4 名行いました。
- ② 全体で計 43 回のサービス担当者会議を開催し、うち 27 回、約 63%で入居者様やご家族様の参加をいただきました（表 I 参照）。

- ③ バックグラウンドアセスメントを整備し、活用することができました。
- ④ 全体で計 6 回、仙台市主催の研修会等に参加しました。

【月別サービス担当者会議開催数（うち入居者様やご家族が参加した数）】

4 月	2 (2)	8 月	2 (0)	12 月	3 (2)
5 月	5 (4)	9 月	4 (2)	1 月	6 (4)
6 月	2 (0)	10 月	4 (2)	2 月	1 (0)
7 月	5 (5)	11 月	4 (3)	3 月	5 (3)

ショートステイ

2015年度は介護保険自己負担が2割となったため、ショート利用をやめる方や、罹災・負担減免適用外になったため、日数を減らす方がいました。ショート便りを作成し、居宅に空き情報を伝え対応しましたが、目標稼働率には達しませんでした。2月からは新規利用など稼働を抑えはじめ、3月から1ユニットでの稼働となっています。

開所当時からご利用いただいている利用者様やご家族との信頼関係ができ、田子のまちのショート以外は使いたくないと、ご家族からもお話しを頂くことが出来るようになってきました。同時に職員の言葉遣い、利用者様への対応についてのご指摘もいただくことが増えました。その都度職員と一緒に考え、対策を立てていますが、今後も定期的な勉強会を開催し、利用者様とご家族が安心してご利用出来るようにしていかなければならないと感じています。

また、相談員から現場職員への伝達ミスや伝え忘れがありました。その内容によっては事故、苦情につながっていく為、共通認識が図れるようにわかりやすく正しく伝えることが必要だと考えています。

【2015年度稼働率・介護度】

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
82.0	80.0	76.5	70.6	76.6	75.3	82.5	72.6	78.0	83.5	73.4	54.8
3.1	3.1	2.9	2.8	2.9	2.9	2.7	2.7	2.8	2.5	2.5	2.6

医務

入居者様のご意向を知り、嘱託医ほか各関係機関との連絡調整、診療の補助にあたってきました。嘱託医の訪問診療は週1回。ほか往診対応は週3回～7回ありました。医療処置別には、在宅酸素療法1名、胃瘻・経食道瘻管理で9名、褥創処置・導尿カテーテル留

置1名、腎瘻カテーテル1名、インスリン注射・血糖測定3名、整形用注射2名は注射製剤の変更と中止となり継続して専門医の診療を受けています。

誤りない配薬準備業務ができるよう、マニュアルの厳守と各関係者へ必要な協力依頼をしましたが、誤配薬がなくなっておりません。背景としては、人員不足があり特養で嘱託医よりの臨時処方指示、業務時間内での処理、対応が追い付いていないことがあげられます。またショートステイご利用者様では、ご利用期間の延長や他医療機関へ受診された際の処方に伴う情報の把握、伝達、読み取り時での配薬準備に誤りを生じることがありました。落ち着いて準備対応できる環境整備と業務改善を努力してきましたが常態的に残業があり課題が残る結果となっております。

年度初めに感染性胃腸炎の施設内で集団発生があり、対応・対策では、坂病院感染制御室、宮城野区保健福祉センター管理課、仙台市介護課より指摘、ご指導いただいています。今後も感染対策には注意してまいります。

今年度も結核予防法に基づく施設健診、インフルエンザワクチン接種を入居者様と職員に実施できました。新たに専門医の往診受け入れ(外科…褥創・創傷管理、歯科…嚥下評価)、在宅復帰に向けた経管栄養指導が一例ありました。夜間の救急搬送時の対応、施設内での看取り時の対応など各職種での協力のもと実施してきました。

## 食養

今年度は初めて入居者様への嗜好調査を行い、給食委託会社と結果を共有することで献立内容の充実へつなげることが出来ました。食養会議で意見を出し合い、一人一人が建設的に業務を行うことが出来、厨房業務の効率化を図りました。一方で食材の数量を間違えて仕分けたり、ユニットを間違えてセットしてしまったりとミスもあったため、来年度は正確で効率的な厨房業務を行っていきたいです。衛生面では、手洗いや衛生区域と非衛生区域を意識しながら仕事に取り組みました。

続いて、栄養ケアマネジメントですが、管理栄養士が2人体制だったため、栄養ケア計画を滞りなく作成出来たことは良かったです。来年度は多職種とより協力し合いながら入居者様の食生活がさらに豊かになるような栄養ケアマネジメントを行っていきます。

## 事務

窓口、電話対応については明るく親切、丁寧な対応を心がけ、ご家族にも積極的に声をかけ会話する機会を多く持てたと思います。また、職員とは今年度からリーダー会議へ出席し情報交換や事務連絡を行ってきました。直接意見を聞き、情報を詳しく伝達しましたが、まだ足りない部分もあり、伝える内容のまとめ方を工夫し職員とのコミュニケーションを図っていきたいと思います。

毎月の経営報告の様式は未だ改善できていない状況なので、様式を工夫して分かりやすく職員へ報告したいと思います。

日次業務、月次業務に漏れ、遅れや確認不足によるミスがあったので、チェック表を作成し事務職員で二重確認を行い、正確な処理を行いたいと思います。施設開所 3 年目となり増えてきた書類が整理できていない状況なので、今後それぞれの保管期間を把握し整理整頓も行いたいと思います。

#### 2015 年度取り組み

- ①会計業務（下記表参照）
- ②会計担当者会議、消費税勉強会への参加
- ③社会保障運動（福祉ウェブ・デモ・平和行進）への参加と署名活動の呼びかけ

#### 会計業務 \*月次決算作業は毎月

4 月 2014 年度決算作業	10 月 半期決算作業
5 月 2014 年度決算作業	11 月 仙台市監査
6 月	12 月 第 2 次補正予算作成
7 月	1 月
8 月 第 1 次補正予算作成	2 月 2016 年度予算作成
9 月	3 月 最終補正予算・2016 年度予算作成

#### 職員研修

今年度は年間計画を立て、各部署や委員会に直接呼びかけ、事業計画に盛り込んでもらったことで、計画通りに開催することが出来ました。しかし、計画の段階でリスクマネジメントに関するものを年 2 回計画されておらず、監査で指摘されてしまいました。来年度の計画で見直していきます。

5 月に職員対象に研修アンケートを実施しました。認知症、看取りケア、福祉用具に関する研修希望の声が多く、今年度に活かして開催出来ました。研修に対して準備時間が作れない、内容自体に面白味を感じない、いつも同じ内容 など大変厳しい声が職員から聞かれました。どのように時間を確保していくか、成果を実感出来るにはどうしたらいいか、課題が残っています。

#### 2015 年度取り組み

- ①5 月に研修希望アンケート実施しました。
- ②研修会の案内をグループセッションに掲載し、職員に周知しました。
- ③復命書の提出を個別に声掛けし、早期提出に努めました。

4月	10月盛り付け学習会
5月脱水について	11月感染症学習会
6月食中毒について	12月排泄ケア学習会
7月認知症サポーター研修 認知症実践者研修	1月高齢者虐待防止について
8月コミュニケーションについて 入浴ケアについて	2月リスクマネジメント学習会
9月看取りについて	3月新人研修 身体拘束について

【2015年度事故件数】

転倒	転落 滑落	異食 誤嚥	誤薬 誤配	火傷	無断 外出	介護中 の外傷	その他 の外傷	紛失 破損	その他	計
101	81	4	95	3	7	25	144	5	14	454

## 乳銀杏保育園

2015年度、乳銀杏保育園の保育所経営について次の取り組みが行われました。

### 1、事業規模

#### ①入園状況

年齢	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
1歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2歳	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
3歳	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
合計	131	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133

#### ②職員体制（4月1日現在）

	保育士	看護師	栄養士	調理員	園長	その他	計
正規職員	16		1		1		18
臨時職員	7						7
パート（6H）	1			2		1	4
（5H）	2						2
（4H）	3	1		1		1	6
（3H）	1					1	2
（2H）				1			1
土曜・休日保育	2						2
計	32	1	1	4	1	3	42

・正規保育士1名が6月からの産休に引き続き育児休業を3月まで取得しました。臨時保育士が11月から3月まで産休、育休を取得しました。（次年度の5月までの予定）、その代替え職員は1月～3月まで元職員を臨時保育士として雇用できました。また、入職1年目の保育士が年度途中で退職となりました。代替常勤職員の途中採用は困難であるため、非常勤パート保育士2名の採用で体制を整えました。

#### ③保育事業内容

##### <一時保育>

利用延数は2,283名と休日保育の一時預かり保育は144名でした。補助金が6,239,000円、利用料は4,845,000円で、昨年より、3歳未満児の特定保育利用が多くなるなかで、補助金、利用料とも大きく増額をしました。異年齢保育の工夫や困難を抱えた保護者への支援を心がけ担当者と管理部が連携して、個別面談も取り入れて行いました。しかし一日

10名の定員の中で、特定利用が半数近くいる中で、本来の目的である用事やリフレッシュ利用が制限して受けなければならないため、担当者がその希望に応えるために苦労している状況でした。

#### <休日保育>

延利用人数は認可保育園等に入所している延べ利用児童数 505 名、実人数は 66 名、一時預かり述べ利用児童数は 145 名で、実人数は 30 名でした。開所日は 70 日でした。新制度になり認可保育園等に入所している児童は利用料が無料になり、保育所へは給付費加算で年間 5,050,000 円、その他は休日一時保育利用の補助金として精算されます。補助金の中に 1,010,000 円の加算がありました。今年度より通常保育と同じく 11 時間開所が義務づけられたため、7 時 30 分～18 時 30 分の開所時間に合わせ、職員体制を 4 人にし、早番の 2 時間勤務のシフトを導入しました。また支援の必要な家庭の仕事に合わせて、15 分早く開所することも職員の協力の下におこないました。

#### <延長保育>

日々平均利用人数が平均 16.6 名で昨年度より削減しました。0 歳児クラス児が 2～5 名利用しました。平均利用数が 20 名以下になり、基本補助金は 172,000 円減少になりました。0 歳児クラス児は 0 歳児室で保育するなど、落ち着いた環境で保育できました。

#### ④職員の役割分担

- ・主任保育士を 2 名体制にしたことで、多岐に亘る業務を分担して行うことができました。
- ・休日保育の体制を含めて担当者と園長で会議をおこないました。担当者が計画実施を行い、園長は点検や承認、担当者間の連絡を行い業務が行われました。
- ・一時保育は緊急の場合等も含め、日常の電話、申請受付、集金を園長、主任、事務員も入り行っています。利用可否は担当職員が 3 時から 30 分の時間に保護者に連絡する流れにしたことで、煩雑さが解消しました。
- ・食育については栄養士が中心になり懇談会の試食会、親子クッキング、あそぼう会で地域の保護者むけの離乳食の実際と食べさせ方などを取り組みました。
- ・保健業務は看護師が入職定着したことで、午前の業務内ですが応急処置、薬の管理、感染症対策や掲示、健診準備、身長体重計測、保健日より、書類整備、0 歳児補助など多義わたり役割を担い必要な業務が遂行できました。

#### ⑤設備・環境

- ・旧園舎南側屋外排水管のモルタル破損等で水道、トイレの汚水がつまり、緊急に大規模な改修工事が必要になり 2,170,000 円（消費税別）の費用で行いました。
- ・安全のための細かい補修や日除け地震対策、清掃などは用務員の力を借りて行いました。
- ・計画通り、老朽化した椅子や机を整備しました。
- ・給食室の食洗機の故障、1 歳児室の電気温水機の故障により買い替えを行いました。
- ・保育環境を整えるため予算にそって執行しました。

#### 2、保育内容について

## 1) 保育内容

- ①保育者の人権意識を高め、子ども一人ひとりを尊重し仲間の中で育ち合う保育について、研修し、職員会議の中で深め保育実践を行ってきました。
- ②行事への取り組みは日常の保育内容の蓄積として、どの子ども達成感や楽しさを感じられる取り組みになりました。
- ③障害児保育：今年度は2歳児クラスに1名、3歳児クラスに1名の児童が在籍しました。担任への信頼とクラス集団の中で、友だちと一緒に成長する姿がありました。関係機関等に要請して研修を行いました。
- ④年齢別のクラスで保育内容の向上とチームとしての連携を迫及し、入職1～2年目の職員の成長を支えることができました。各パートで成果の強弱はありますが、次年度へ課題も含めて職員間の育ちあいをつくる方向性をつくることができました。
- ⑤困難を抱えた子どもが多数在籍する5歳児クラスは主任保育士を中心に園長、幼児組職員集団が具体的に活動を支えて卒園式等を成功させることができました。

## 2) 保健活動

### ①感染症について

突発性発疹	溶連菌感染症	感染性胃腸炎	手足口病	とびひ	RSウイルス
9名	14名	20名	20名	9名	8名
伝染性紅斑	おたふく風邪	インフルA	インフルB	ヒトメタ	頭じらみ
2名	2名	24名	7 (AB1)	2名	5名

- ・感染症発生時にはすぐクラスの消毒や、掲示など必要な措置を実施しました。  
インフルエンザは2月に罹患状況を仙台市に報告しました。  
胃腸炎罹患はおむつ交換の場所や交換時の職員の対策を管理部、担任と確認して行いました。

### ②歯科健診について

- ・歯科検診の結果は保護者に伝えると同時に仙台市提出用にまとめ報告しました。虫歯予防について懇談会で取り上げていますが、下記の表の通り仙台市の平均より高くなっています。2歳までは0ですが、幼児組で入所してくるお子さんの中に一人で多数保有している状況です。懇談会での報告や歯磨き指導も行いました。

#### <一人平均虫歯経験指数>

年齢	幼稚園	保育所	乳銀杏
0歳		0.0	0.0
1歳	0.1	0.0	0.0
2歳	0.1	0.2	0.0
3歳	0.5	0.8	1.3
4歳	1.0	1.4	2.9
5歳	1.5	2.1	2.2

- ・毎日の薬の確認と与薬の確認を担当と看護師で行い飲み忘れや誤薬防止を行いました。
- ・対応が必要な子への視診をおこない看護師や園長の判断を基に必要な処置をとりました。
- ・健康診断は年2回実施。診断結果を個別の健康ノートで保護者に伝え、大事な点は面談を行いました。

### ③怪我、事故

- ・受診した怪我は7件でしたが肘内症、口唇、打撲など軽症なものでしたが昨年より4件増でした。一時保育におけるアレルギー食の誤食があり保護者と受診しました。担当保育士の確認ミスによるものでした。日替わりで利用児童が替わる一時保育において特に注意が必要であることを全体職員会議で確認しました。今年度もヒヤリハット記録をつくり全員が確認し、全職員会議で報告検討をして取り組みました。
- ・3月4歳児クラスの3名の児童がカラオケに行く相談をして、保育園の鍵を開け母の職場にいき保護された事故が起きました。子どもへの指導と鍵の交換を行いました。

### 3) 食育活動

楽しく食べる体験を深め「食を営む力」の基礎を培うことをねらいにとりくんできました。食育に関する取り組みや行事などは、写真をその日に掲示して保護者に知らせてきました。子どもが主体的に食に楽しく関わることを大事に選んで食べることや、自分でジャムを塗る、ハンバーガーをつくる、給食室のラーメン屋さんで、チケットと交換してなど、行事食と共に日常の給食で取り組みました。懇談会では試食会や親子クッキングを行い塩分摂取について考えてもらい、保護者との日常の関わりをつくることを行ってきました。野菜の皮むき活動（そら豆、筍、とうもろこし）やクッキング活動も行いました。

\*離乳食、アレルギー食、配慮食の対応。アレルギー食の誤配・誤食を防ぐための日々の打ち合わせやチェック表を活用して行いました。アレルギー食は通常保育では防ぐことができてきましたが、0歳児クラスの1歳児において、家庭での試食をしてから給食で与える魚について試食前に与えたのが一件ありました。再発防止について給食担当者でクラス担任が複数で確認できるようにすることを確認しました。

### 4) 安全管理

- ①安全管理マニュアルや防災マニュアルを職員会議で研修を行い、職員1人ひとりが意識的に備えて、対応できるようにしました。特に散歩は緊張感をもって取り組み、事故はありませんでした。
- ②避難訓練を事前に時間をしらせないで行うことを取り入れました。児童の避難靴を整備し、履く訓練も行いました。
- ③不審者対応訓練を行い職員間で避難対応を連携して行えるように備えました。
- ④救急救命講習を行い常勤職員23名受講しました。

### 3、保護者支援と連携

#### ①支援を必要とするケースについて

全体職員会議で保護者の状況や保護者からの意見や要望、苦情を毎月討議して、保護者の

状況を理解していくことを大事にしてきました。特に一時保育利用の保護者も含め、鬱や貧困など、支援の必要な保護者については、担任と管理部が連携して配慮し支えていくようにしました。そうした保護者が今年度は家族の支えもあり安定し、子どもが保育園を休まずにきていることで、成長し行事にも生き生きと参加するなどの前進がありました。ひとり親家庭 9.3%、非課税世帯が15.5%で非課税世帯が前年度より多くなっています。

#### ②苦情について

苦情は2件ありました。他児が閉めた扉に指を挟み、こちらの対応は冷却して様子を見ることにしてすぐに受診しなかったことについて、不安を訴えてきました。改めに対応の十分さを謝罪し、受診をして骨折はしていないことを伝えて解決しました。もう1件が友だちとのトラブルによる顔への引っかき傷をつけられたことでした。傷はきれいに治癒しましたがアンケートにも率直に書いてきた、担任の保育に対する厳しい意見、不満が大きくなりました。お話をよく聴き、園としての対応ができていなかったことを謝罪し、その後の保育で主任や園長が担任を前線的にバックアップして取り組み、一定の理解は得られ解決しました。

#### ③懇談会について

前年度までは9クラスの懇談会を年3回行ってきましたが、保育園側の日程設定がきびしく年2回行い、親子クッキングや試食会を入れた企画にしました。1回は土曜日午前か平日の午後の時間帯を設定し、子どもの長時間保育の負担軽減を行いました。参加者は80%以上でした。欠席した保護者へは個別の面談を行いました。

#### ④保護者アンケートについて

行事や日常の保育内容や職員の対応や環境整備、懇談会について記入してもらいました。回収が102世帯中67世帯で満足、どちらかと言えば満足が83%~98%であるが、記述での意見の一つには担任の保育への厳しい意見もあり、園としての対応が機敏にできていなかったことが、大きく反省させられました。

#### ⑤地域の子育て支援について

一時保育や「遊ぼう会」年10回開催(内容、わらべうた遊び、離乳食、育児相談等)で、地域の子育て支援を行ってきました。一時保育は緊急の場合は職員の手配を厚くして0歳児から受け入れを行い役割を果たしました。

### 5、職員の研修と評価

①子どもの人権を大切にしていくための学びや子どもが生き生きと活動するための研修、安全衛生の研修を行ってきました。安全、衛生マニュアル、救急救命蘇生、子どもの権利条約、保育情勢、運動あそび、絵本、劇あそびで大切にすることなど年間を通して園長、主任からの報告、文献学習と実践検討を行ってきました。また研究者の講話と実践検討で保育の振り返りを行いました。

②年2回の保育・食育の総括会議を行い全常勤職員(担任のパート職員を含む)で報告と検討を行い、職員の自己評価と園としての自己評価を行いました。保育で達成したこと、不十

分だったことの捉えを深め、次年度に活かせる自己評価ができました。

③パート保育士の会議を毎月行い、延長保育時の問題など意見を出し合い改善することができた。職員会議の報告と短い論文の学習を行いました。

④給食担当職員の研修は栄養士が文献等の準備を行い、アレルギー食、離乳食、食中毒や衛生についての研修を行いました。

#### 5、小学校との連携

①発達の気になるお子さんの保護者との面談を行い、教育委員会での相談会に参加してもらうことや、アーチルへの発達相談につながり、小学校入学に向けて児童の理解と配慮が進む方向をつくることができました。また、小学校の連絡会で引継ぎ学校から保育園に児童の観察にきてもらい、児童の理解と入学後の配慮について丁寧に引き継ぎをすることができました。

②「保育要録」を学校に送付するとともに、原町小学校の見学会に年長児が参加しました。

## 柳生もりの子保育園

### 1. 事業規模

#### (1) 入所児童

今年度は0歳児の希望が少なく、代わりに1歳児の枠を広げて123名で出発しました。途中退園もありましたが、仙台市は待機児も多く半月遅れで入園し、年間通して125名の園児を保育してきました。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
1歳	22	24	24	24	24	24	24	23	24	24	24	24	285
2歳	18	18	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	215
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
4歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
5歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
合計	123	125	125	125	125	125	123	125	125	125	125	125	1496

#### (2) 職員体制

正規保育士13名と臨時保育士4名の合計17名でクラス配置し保育を行いました。4月は、主任保育士2名とパート保育士2名でつないだ1名分のフリー保育士でしか配置することができず、求人しても応募がない状況が続きました。その後7月～10月まで夕方2時間のパート保育士、9月～3月まで4時間のパート保育士を採用し、3月に正規保育士1名が育児休業から復帰し、この二人をフリー保育士で保育を運営してきました。しかし、給食調理員が1月に怪我で休業2月に退職となり、代替え募集しても採用にはつながらずなんとか体制を作りしのぎました。

柳生地区は、通勤に不便なことで敬遠されるのか、派遣保育士でさえ見つからない状況が続きました。しかしそんな中、開園12年目となり中堅保育士も増え、職員間の連携と協力で運営することができました。

	保育士	栄養士	調理師	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	14	1	1			1		16
臨時職員	4							4
パート 6h	3							3
パート 5h				1			1	2
パート 4h	2				1			3
パート 3.5h	1							1

パート 3h	1			2			2	5
パート 2h	2							
合計	27	1	1	4	1	1	3	38

上記の他に嘱託内科医師 1 名、歯科医師 1 名

### (3) 保育事業内容

\* 2015年度の公定価格は、年間通して加算額の請求と補助金申請を行いました。

利用料収入は、保育標準時間の延長保育料と保育短時間の延長保育料が入りました。標準時間保育の延長保育平均利用は12名でした。短時間保育の利用は、保護者の就労時間と合わずに1か月のみ利用する世帯(随時就労時間に合わせて標準認定に変更)と年間通して短時間保育認定のまま利用する世帯がありました。短時間認定の世帯の中に生活保護世帯や非課税世帯もあり、仙台市が補てんしました。

特別事業は、障害児保育5名と乳児保育10名と延長保育を行いました。

### (4) 職員の業務分担と役割

\* 8クラスを担当保育士で運営しました。

園長は、主任保育士の助けを借り主任会議等で協議しながら、総括的指揮を執りました。主任2名体制で行い、日々の保育を管理運営してきました。具体的に職員体制配置と調整、未満児保育の運営管理、保育全体の管理担当、2歳児・幼児組の管理運営等の分担を決め勧めました。保育内容全般について主任保育士二人で確認し合いながら行いました。また職員間や保護者との関係が円滑になるよう園長と主任で協議し、配慮して日々の業務管理を主任保育士が行いました。

\* 会計は、事務員と日々の経理業務を確認しながら保育所運営全般の事務を行いました。園長を務めて2年目ですが、保育所運営全般の事務について、今年度は子ども・子育て新制度の制度に伴い、公定価格の加算部分でその都度変更がありその理解と手続きに時間を要し、日々の手続きに追われてしまい反省しています。

\* 食育活動は、栄養士が立案し給食職員と保育士と協議して行うよう努めましたが、時間に追われてしまうこともありました。今後は、栄養士が中心となって時間的にも見通しを持ち、食育の意義もしっかり持って計画的に進められるようにしていきたいと思います。

また、基本となる日々の給食業務についても整理し、給食職員間で連携をとりながら給食を行っていききたいと思います。

\* 看護師が9月に1か月病気休業しましたが、その間代替看護師を補充し、保育士と連携をとりながら、保健業務を行いました。ほけん便りも3号発行して保護者へ啓蒙しました。

\* 職員と用務員が管理部に集中し、改善個所を伝えて環境整備を行いました。また清掃や美化にも用務の力を借りて努めました。

## (5) 設備・環境・保育材料

\*2015 年度も各クラス遊具の点検を行い、年齢に合わせた保育教材の購入を行いました。クラス担任の希望を聞き吟味して購入しました。

\*開園 12 年目となり、今年度は経年劣化に伴う修繕を行いました。高圧気開閉器交換、キュービルク塗装、園舎外フェンス工事、北側駐車場車止め工事を行いました。

\*園庭の植栽は、主任保育士と用務が中心に整備して行いました。

\*その他、正面玄関や北玄関の電子錠交換など、保育園設備の不具合を確認し修理を必要に合わせて補正予算を組みながら行いました。

\*NPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」の太陽光発電に賛同し、屋根を貸し出すことになりました。それに伴い、9月屋根に太陽光発電機の設置工事を行い、10月から発電を開始しました。

9月の壁面への設置工事後、9月28日と29日に漏電警報機が作動し、設置会社(株)プロジェクトウサミと東北保安協会に調査を依頼しました。東壁側コンセント回路が漏電していることが確認でき、10月1日に漏電部分の配線を切り離して使用しない配線につなぎ直しました。また設置業者による点検を11月～4月までの計6回行いました。いずれも異常なしで、発電を行われています。

\*今年度施行された子ども・子育て新制度に伴い、保育園のパンフレットを新しく1000部製作しました。保育園のホームページも主任が中心となって行事ごとに更新しました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育内容

\*予定して行事をほぼ計画通りに行いました。

\*今年度、107世帯中、生活保護世帯は2世帯、非課税世帯は10世帯でした。非課税世帯以外で、家庭によっては9月の保育料算定式の変化で保育料が値上がりし、滞納してしまう家庭が4世帯あり、そのなかには3月まで続く世帯もありました。生活実態の厳しさがうかがえました。

\*退園や転園に伴い、秋に3名の入園を迎え、再びクラス運営を見直しながら保育を行ってきました。8月に0歳児の男児が泣き入りひきつけを起こし、一時呼吸が停止し、意識は回復しましたが救急車で搬送した出来事は、保育園として命を預かることの重みを改めて深く感じ、対応に非常に苦慮し検討したことでした。このことで、保育園としてまた法人としてどう対応すべきかを改めて突き詰めて考えることになり、保育園で命を守り育てとはどんなことなのかと考えさせられました。男児が育つ施設として保育園で担えるのかという疑問が大きく、泣き入りひきつけだけでなく身体的な発達面でもゆっくり育てていることへの懸念もあり、保育園で保育をすることへの不安がなかなかぬぐえませんでした。しかし、保護者は保育園での保育を希望していたこともあり、保育園として判断するため、男児の担当医の見解と囑託医からの泣き入りひきつけについて学習し、保護者と保育園ができ

る対応について話し合いながら保育することを確認してきました。男児の保育を行う上では、担任の心労は深く、緊張しながらも子どもの成長のために日々努力してきました。また、全職員に対応マニュアルの指導や起こった時の対処方法など気を付けながら保育を行い、本児の保育を通して、職員全体でこどもを保育する意識を痛感したことでした。

また、今年度は幼児組の5名の障害児の保育だけでなく、複数いる気になる子どもの保育や一人担任の保育で個別の課題のある年長児の荒れる姿に、保育に悩む保育者への管理部や職員集団の支援のあり方が問われた年でした。

日々の保育では、クラスリーダーを中心に保育を計画し相談しながら行いました。クラス会議に主任も入り、クラスの課題と方針を立てて保育にあたりました。幼児組の3・4・5歳児の縦割り活動は、5年目となり異年齢の交流保育の中で育つ保育の目標・年間計画を立てて異年齢のこども同士の交流を作ってきました。同月齢では作られなかった育ちあいも生まれ、定着しています。全年齢を通じて一人一人の子どもに寄り添い、安心して保育園生活をおくり友達と関わりあいのなかで育と合う保育が取り組まれました。

\*1月に行った保護者アンケートは107世帯中83世帯から回答がありました。保育内容には概ね理解していただいた回答でした。幼児組の縦割り保育について好評の声が上げられ、取り組みの様子が保護者にも通じていることを感じました。一方で年齢が上がるたびに保育者に話かけにくい雰囲気も感じるとの回答もあり、検討していきたいと思います。設備関係での意見が出され、分かりにくい面があることが分かりアンケート報告で回答しました。

\*苦情は7件あり、直接の苦情だけでなく仙台市の運営支援課から電話で状況確認を受けた件も3件ありました。なかでも、保護者から「入園児の個人情報職員から流失している」と苦情を受けたことは大きなことでした。全職員に聞き取り調査を行い、保護者に職員から漏洩する事実がないことを伝え、そのうえで保護者の意向を確かめました。保護者からは今後も保育園で生活を希望されたことを受け、職員には、保護者との信頼回復のためにこれからの保育で関係修復を作っていけるよう話し合いました。また、職員に今一度襟を正して守秘義務を遵守していくことを確認しました。

## (2) 保健活動

\*今年度の通院が必要な事故は、昨年より倍以上に通院があり、毎月のように起きてしまい一年間で19件となりました。大きな事故も多く職員も心労を重ね、対策をその都度取ってききましたが、なかなか事故を減らすことができず深く反省しています。特に幼児組には配慮の必要な子どもも複数いるなかで、ひとクラス24~25人の人数で、日々生活が行われることや合わせて障害児保育も行うなか、事故は、生活の切り替わりの時間や合同の朝・夕の時間が多くありました。水曜日が6回ともっとも多く、月曜5回、金曜日は4回、木曜日2回、火曜日1回、土曜日1回となっています。幼児組の事故防止には、子どもの特徴の理解は欠かせないし、仲間関係の育ちを丁寧に見守り関わりあいを作りながら保育を行うことが大事になりました。また、全職の事故報告だけでなく安全管理マニュアルに具体的な事故防止についても記載し、全職員で事故を回避できるよう意識していきたいと思えます。

\*病欠と与薬について

2015年度 病欠一覧

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
風邪	54	34	43	32	36	31	13	21	29	11	23	28
胃腸炎	4	16	10	3				2	10	7	3	5
溶連菌	1			1					1	3		3
突発		2		1						1		
ノロ・ロタ		2										
アデノウイルス			2	4								
気管支炎		1	1							1		
じんましん		1							1	1		1
クループ		1	1			1		1				
中耳炎		1			1	1		1				
喘息			1				1	1		3		
とびひ				1	3	1						1
手足口				15	4	2	1					
ヘルパンギーナ					3							
RSウイルス					2	3	1		2			
川崎病						2	2	1				
インフルエンザ										14		6

\*今年度は12月までは暖かく、インフルエンザの流行は1月に入ってからでした。しかし、家族間の流行が多く、クラス間で大流行することはありませんでした。胃腸炎に関しても、保育室での嘔吐物に対する処置を徹底し、保護者にもお子さんの体力回復の面と感染予防のお休み協力もお願いしたことで、保育園内の流行が避けられました。

2015年度 与薬人数

	つぼみ	つくし	どんぐり	こりす	みつばち	おひさま	かわ	やま	合計
与薬数	135	252	339	296	368	534	446	448	2818

\*昨年度より400件ほど少ない与薬数でしたが、一日に30人ほど与薬(のみ薬やぬり薬)することもあり、看護師が1時間かけて行っています。ここ数年肌のケアが必要なお子さんも多く一人一人のケアに時間がかかっています。

3、職員の研修と評価

\*主任が計画し、新入職員や若手職員と育児休業復帰の職員を中心にO J T研修を行いました。

\*パート保育士の会議は行うことができませんでした。日々の保育方針や子どもの姿の捉え方が保育方針について、職員全体での関わりが重要であり、園長がしっかりと意識して取り組むべきだったと反省しています。

\*年二回の保育総括会議を行い、クラスごとに掴んだことや大切にしたいことをまとめました。後期はクラス報告の後にグループ討議を行い、少人数のなかで発言しやすい環境で取り組みました。

\*仙台市研修や宮城保育協会の研修の参加と自主的に保問研や宮城合研に参加し研修を重ねました。

#### 4、小学校や地域との連携

\*就学にむけて年長児の児童要録を児童の入学する小学校へ送付しました。また柳生小月校1年生の学習時間の見学をさせていただきました。近隣の柳生児童館と西中田児童館から指導員が見学にきました。小学校で行う幼保小連絡会に年長児担任が出席し引き継ぎしました。

\*小学校の町探検（2・3年生）での保育所の紹介や中学校の職場体験と保育学生の研究見学1名を受け入れました。

\*柳生町内の老人会と昔遊びを教えていただいた交流と高齢者のグループホームの依頼を受け、慰問を年長クラスが行いました。

\*地域の子育てを支援していく「あそぼう会」は園庭解放、わらべうた、プール解放、芋ほり、給食試食会など12回計画しました。年間を通してのべで13組の親子の参加でした。参加者がいない月がみられました。保育園前にポスターを張り、見学者に案内プリントを渡している程度の取り組みになっています。また、案内の掲示やプリントに育児相談の受付も書いておきましたが、利用はありませんでした。

#### 5、補助金事業

##### <補助金事業>

##### 延長保育について

\*年間通して平均利用が12名と人数は少ない状況でしたが、配慮の必要な子どもの利用があり、延長保育担当や常勤職員で連携を図りながら保育を行いました。

\*保育短時間利用の延長保育は、保護者も理解しにくく、個別の要綱説明や支払い方法など丁寧な説明が必要でした。

延長保育時間	月平均利用者数	補助金収入	利用料収入	合計収入
標準認定時間 18:15～19:15	12人	2,05,8000	666250	2,724,250
短時間認定時間 7:15～8:30 16:30～18:15	1	7,000	1150	8,150

延長保育事業に係る収入予算書

項目	保育短時間にかかる延長	保育標準時間にかかる延長	合計
職員諸手当		523,000	523,000
非常勤職員給与	600,000	1,406,100	2,006,100
法定福利費		300,000	300,000
消耗品費	18,000	35,000	53,000
保育材料費	10,000	22,000	32,000
水道光熱費	80,000	160,000	240,000
給食費		1,008,000	100,800
	708,000	2,546,900	3,254,900

## 古川ももの木保育園

### I. 事業規模

2015年度は定員90名に対して、4月は95名でスタートしましたが、年度途中の入退園が多い1年でした。

#### ① 入園状況（毎月1日の利用数）

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	10	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17
3歳	18	18	17	18	17	18	18	18	18	18	18	18
4歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15
5歳	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
合計	95	95	96	98	97	98	98	97	97	97	96	96

#### ② 職員体制（4月1日現在）

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務・他	計
正規職員	1	13		1		1	16
臨時職員		3					4
パート(6H.)		2			1		3
パート(5H)						2(事務・用務)	2
パート(4H)		3					8
パート(3.5H)		1			2		1
パート(3H.)		1					1
パート(2.5H)		1			1		1
計	1	24	0	1	4	3	33

\*今年度も昨年度に引き続き園長交代があり小関園長から三浦への園長業務の引き継ぎがありました。本部より北部統括責任者として榎部長が就任し会議等に入ってもらい多方面の事で相談できました。6月中旬より病休に保育士が1名入り6月に産休明けで復帰したフリーの副主任がクラスに入ることで乗り切りました。また、体調不良で年度末に退職希望が出されていた4時間パート保育士も5月末での退職にしてもらいました。職員の協力のもと大きく体調を崩す職員もなく運営できました。

## II. 保育事業内容

### 1) 子どもや父母の状況と保育実践

#### ①保育で大事にしてきたこと

・今年度は「保育の中で大切にしていること」を全職員で統一して確認できるようにしてきました。そのために中堅職員の力を借りながら学習係を作り保育の積み重ねをしていこうと取り組みました。今年度は「食事」について各クラスまとめたものを年齢ごとに発達をふまえながら整理しました。また、「描画」についても学習係を中心としてまとめ全職員で学習しました。来年度の保育の積み重ねを「描画の実践」とし継続して取り組んでいきます。

・宮城合研で学んだ「荒馬」を参加した職員が積極的に全職員に広め、自主的に学びの場を設けました。

・保育実践では乳児クラスは遊びを見直し各年齢の遊びの中でどのような大人の関わりが大切なのかを学習しながら生活再現遊びやごっこの世界を楽しむことができました。幼児クラスでは集団作りを重点に幼児部会議で討議しながら取り組みました。後半は場面記録を活用し乳児部・幼児部の会議で確認をし議論を深めながら保育の中での悩みを自分だけで抱えこまないようにしました。まだ始めたばかりなので今後も継続していきます。

#### ②保護者との関係づくり

年2回のクラス懇談会、クラス便りなどを通し、また日々の伝え合いを大切に保護者との信頼関係が築けるように取り組んできました。2月には宮城野児童館館長の菅井先生による「育児講座」を実施し5歳児の保護者が参加して就学に向けて大事にしたいことを確認できました。保護者と共に子ども・子育て支援新制度についての学習会、保育合研への参加、保育署名、にも取り組みました。

#### ③研修について

・今年度も全国の研修や宮城合研、年齢の合わせた研修・障害児の研修などに個々の職員のスキルアップのために参加しました。また、園内研修は全職員が参加できる貴重な場として夜だけではなく行事の午後に位置づけることで参加しやすい工夫をしました。

### 2) 保健活動から

看護師の補充ができないまま、看護師業務を園長、主任で担ってきました。

冬季の感染症は感染性胃腸炎で0歳児4名と1歳児4名が罹患したもののその他の年齢には拡がることなく終息しました。インフルエンザは2月に2名、3月に11名の罹患で終息しました。が、年度の終わりでB型が発症し進級を前にして対応に追われました。

年2回の内科検診、歯科検診も全員受診しました。歯科では3歳児になり急に虫歯の罹患が増え特に4歳児では、1人で12本、8本など前期より増えている傾向が見られました。個別に保護者に声掛けをしました。保育園での指導とともに、保護者に対する、働きかけの必要を感じました。

重大な事故はありませんでしたが、巧技台に手をつこうとして手を滑らせて転倒し額を

裂傷して縫う怪我 1 件（1 歳児）と、肋木からの転落で肘の軟骨にひびが入る怪我 1 件（2 歳児）がありました。遊び方の工夫や配慮を職員で確認しました。

《2015 年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	183	161	172	154	139	280	198	176	166	176	138	139	2082

《2015 年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	17	12	8	13	14	9	12	15	15	9	4	6	134

3) 給食室より

《配慮食》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2	4	6	1	0	0	6	3	1	14	6	0	43

今年度の配慮食のほとんどがアレルギー除去の診断書が出ている子以外（原因不明の湿疹のより検査結果が出るまでの間、新たにアレルギー項目が増えたなどによる配慮になっています。

《アレルギー除去食》

年齢	アレルギー除去食内容
1 歳児 (3 名)	乳全般、卵全般、小麦全般、大豆
2 歳児 (4 名)	卵そのもの、ゴマ（ごま油含む）、キウイ、ピーナッツ
3 歳児	乳、乳製品（菓子などの二次製品は可）、卵、卵製品（菓子などの二次製品は可）
4 歳児	乳全般、卵全般

《主な食育活動》

4月	菜園活動計画	10月	魚の解体ショー、クッキング
5月	よもぎだんご作り	11月	収穫祭、クッキング、地場産給食
6月	野菜の皮むき.箸指導、食事マナー	12月	もちつき会、バイキング給食
7月	野菜収穫、クッキング	1月	クッキング
8月	お泊まりクッキング、食具指導	2月	クッキング、食具調査
9月	青空給食、クッキング	3月	4.5歳児親子クッキング、バイキング給食、クッキング

今年度も異年齢交流給食を行いました。食べるだけでなく大きい子が小さい子を気づかいながらのり巻を作ったり、配膳のお手伝いをしながら楽しく取り組みました（2, 3

歳児クラスから5歳児クラスまで)

いつもと違う環境で戸惑う姿が見られたものの良い経験になったように思います。

昨年に引き続き食事指導もスポット的に実施し、食育活動、食育指導の重要性が担任はもちろん園児・保護者の方々にも認識されてきてきました。幼児クラスの菜園活動ではJA古川さんの指導をいただきながら実施することができました。また食材納入業者魚屋の協力で大きな鮭を子どもたちの目の前でさばく“魚の解体ショー”を今年も実施しました。12月には地域の方のお手伝いでもちつき会、3月には4、5歳児親子クッキングを行いました。4歳児は自分たちで豆から育てた大豆でみそ作りを行いそのみそでクッキングを行いました。園内だけでなく地域と連携した食育活動を今後も大事にして行きたいと思えます。

今年度も「より安心・安全な食事提供」を常日頃から心がけ地場産の食材をなるべく取り入れながら各業者へ食材の安全確認（放射能測定結果の取り寄せ・出荷産地確認・県、市ホームページの確認など）を定期的に行い安全な食材を納入してもらえるようにしました。継続し定期的に食材の安全確認を行い安心安全な給食を提供していきたいと思えます。

《その他の活動として》

\* 父母への働きかけとして：離乳食試食(父母懇談会にて)・簡単朝食レシピ配布・各家庭食事アンケートを実施しました。

### Ⅲ. 補助金による事業

#### ① 延長保育事業

延長保育登録数は、在園児の6割弱が登録しました。また、人数は若干減ったものの7時過ぎのお迎えもみられ、保護者の仕事の大変さが伺えます。延長保育の利用増に伴い、保育の配慮や職員体制の検討・改善も行ってきました。また延長利用児のアレルギー対応も確認しあい誤食の予防に努めてきました。子育てに余裕が持てず仕事との両立に疲れている保護者が多く見受けられ、丁寧な保育支援が求められていることを痛感します。

〔2015年度の利用状況〕

申し込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6:01時点の平均数	22	23	22	23	22	24	27	26	24	22	22	24
6:31時点の平均数	12	11	12	9	10	12	12	12	11	10	10	11
4:01時点の平均数	5	5	4	4	2	2	3	3	2	4	3	3

#### ② 地域交流事業

地域交流事業として「夏祭り」を行いました。また、世代間交流として「お店やさんごっこ」を1月に実施しました。あそぼう会は年5回行い、わらべ歌遊びを3回実施、地域の親子がゆったりと参加でき心穏やかな時間になっており、子育て中の親子の交流の場としても定着してきています。しかし、参加家庭を拡大させていくことも、今後の課題です。遊ぼう会に参加した親子が、入園に結びついている実態があります。

## 下馬みどり保育園

2015年度、下馬みどり保育園の保育園経営について次のように取り組みました。

### 1. 事業規模

#### ①入園状況

毎月1日現在

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
0	4	5	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8
1	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
2	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
4	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
合計	64	65	66	68	68	68	68	68	68	68	68	68

#### ②職員体制（4月1日現在）

	園長	保育士	保育 補助	栄養士	調理員	看護師	事務 員	用務 員	計
正規職員	1	8		1					10
臨時職員		3							3
パート6時間		2			1	1			4
5時間								1	1
3:15時 間		1	1						2
計	1	14	1	1	1	1		1	20

・常勤保育士1名が12月末で退職し、補充できないままになりました。事務職員を補充することができなかったため、主任保育士が出納職員とし日々の出入金管理を行いました。

#### ③保育事業内容

計画どおり給付費（運営費）収入、補助金収入、利用料収入で行いました。今年度は教育・保育施設等子ども・子育て支援事業として延長保育事業、病後児保育事業を実施しました。

- ・延長保育は利用年間延べ数1,478名、一日の利用平均は6人（18：31分時点）でした。補助金収入は1,342,000円、利用料は724,000円でした。
- ・病児保育事業（病後児対応型）は、年間延べ利用数61名（うち他園児童22名利用）でした。補助金収入は4,213,000円、利用料収入は122,000円でした。
- ・乳児保育促進事業補助金は195,000円、地域活動事業補助金は、90,000円、障害児保育

事業補助金は2名（3歳児・5歳児）でしたので2,328,000円となり、補助金と利用料の総額は9,014,000円となりました。

#### ④ 職員の役割分担

- ・菅原和子前園長から、小関靖子が園長業務を引き継ぎ、主任保育士、副主任保育士の管理部体制で、保育園全体の管理運営にあたりました。事務職員の配置ができなかったことから、日々の出入金管理を主任保育士が行いました。
- ・病後児保育は看護師が担当し、年間で61名の利用、うち多賀城市内の他園児童の利用が22名でした。病後児保育の周知と、利用拡大を図るために、市内の公立、私立保育園12カ所を看護師・主任が訪問し説明、利用呼びかけ及び、情報交換を行いました。園児の健康管理については感染症予防の観点から手洗い指導を担当と連携して実施しました。
- ・食育については1年目の栄養士が、調理員の協力を得て、業務を滞らせることなく遂行できました。保育士との連携は給食委員会を定期的を開催し、子どもの状況を把握することに努めました。また屋上の畑で栽培した野菜を使つての食育にも取り組み、子どもたちの食への関心を高めることができました。

#### ⑤設備・環境

- ・懸案だった玄関以外の非常口を、車道フェンスの一部を利用し、設置しました。火災、地震など災害時の避難誘導が、スムーズに行えることになりました。
- ・園庭固定遊具（鉄棒、ブランコ、滑り台の降り口）の下に、転倒時の衝撃軽減のためクッション材を設置しました。
- ・不審者対策と子どもの指はさみ事故防止・安全を考え、保育室引き戸内側に鍵を設置し必要に応じて使用できるようにしました。

## 2. 保育内容

### ①保育内容

- ・一人一人の子どもを大事にする立場で、個々の子どもの状況を把握し、日々の保育に生かされるように各クラス目標のもとクラス会議の実施、未満児会議、以上児会議、リーダー会議の中で短時間でも学習に取り組みました。その中で複数担任同士のコミュニケーションが取れ、保育のねらいや内容が共有できるよう管理部もかかわりながら取り組みました。
- ・行事については、各行事担当者を明確にし、職員全体で協力しながら作り上げていくやり方にし、職員一人一人が計画、実施、反省までを責任を持ちやり遂げる経験を積み重ねることができるようにしました。年長児のお泊り保育は園外の活動も組み入れ、どの子ども期待を持ちいきいきと楽しく活動できました。
- ・障害児保育は、3歳児のダウン症児は2歳児クラスの中で担当者を配置、5歳児自閉症

スペクトラムの診断のお子さんは、6時間の保育士を配置、子どもの特徴に応じた手厚い保育に取り組みました。就学に向け保護者との日々の伝え合いを特に重視しました。診断名のないお子さんで、児童発達支援センターに定期的に通園しているお子さんについては、保護者、センターとも連携し、保育にあたってきました。

・1, 2歳児クラスでの嘔みつきが頻発したことで、保育園の対応を見直しました。保育園の責任を明確にしたうえでそれぞれの保護者の理解も得られるような対応を心がけてきました。ヒヤリハット報告を書くことで保育を見直すことにもつながりました。

月	行事名
4	入園式 内科検診
5	歯科検診 遠足
6	交通安全教室、鶴ヶ谷保育所との交流保育、エプロンおじさん読み聞かせ会 保育参観・懇談会（2歳児、3歳児、4・5歳児クラス）
7	七夕会 クラス懇談会（0歳児、1歳児クラス） プール開き、なつまつり
8	5歳児お泊り保育
9	交通安全教室 祖父母との交流会
10	運動会、鶴ヶ谷保育所と交流保育 内科検診、歯科検診 さんまパーティー 芋ほり
11	子ども作品展 鶴ヶ谷保育所と交流保育（観劇） 勤労感謝訪問（地域の八百屋） 食育（鮭の解体）
12	もちつき会 クリスマス会 クリスマスコンサート 小学校訪問
1	正月遊びの会
2	豆まき 交通安全教室 クラス懇談会
3	ひな祭り会 卒園式 劇団21による人形劇公演（鶴ヶ谷保育所との交流保育）

\*避難訓練、誕生日会は毎月実施

## ②保健活動

・年2回の内科検診、歯科検診を実施しました。虫歯罹患者は4歳児1名、5歳児4名でした。

健診結果は速やかに保護者に伝えました。年間を通して看護師を中心として感染症予防に取り組みました。保育士と連携し、清潔な環境づくり、手洗い指導に取り組みました。

・病欠の主な病名

病名	インフルエンザ	風疹	プール熱	RSウイルス感染症
人数	9	1	1	1

風疹	マイコプラズマ肺炎	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	溶連菌感染症
1	1	12	15	1

\*病名を診断された人数（発熱・かぜ・腹痛等は含まず）

・与薬 1,945 件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	253	124	204	128	116	149	162	145	219	125	152	168

・ひやり、はっと件数 95 件

噛みつき 44 件、ひっかき 31 件、打撲 6 件、転倒 8、その他 6 件

・病院受診事故 6 件

蕁麻疹 1 件、歯科受診 2 件、眼科受診 1 件、肘内障 1 件、爪のぐらつき 1 件

### ③ 給食室・食育活動

新任栄養士と調理員二人体制で給食業務を行いました。アレルギー食、離乳食、配慮食の対応、食育活動（野菜の皮むきや、クッキング、鮭の解体、ラーメン屋さんなど）をクラス担任と協力して取り組みました。食育活動ではその日のうちに活動内容を写真とともに玄関ホールに掲示し保護者へお知らせしました。懇談会での試食の実施、0 歳児クラス懇談会では離乳食について話してもらい、保護者との情報交換ができました。誤食はありませんでした。

### ④安全管理

- ・5 月の散歩中、園児の置去り事故があり再発予防のためマニュアルの見直しをしました。「園外保育における安全管理マニュアル」を新たに作成し、緊張感をもって散歩に取り組みよう職員会議で確認しました。
- ・夏のプール遊びの前には新たに「プール遊び、水遊びにおける安全管理マニュアル」を作成し、プールの衛生管理や、安全への配慮、子どもへの健康教育について確認しました。
- ・避難訓練は毎月実施し、竜巻を想定する、朝や延長時間帯での訓練を設定する、第二避難所（鎌倉公園）までの訓練も取り入れてきました。救急救命講習を行い職員 15 名が参加しました。

### 3. 保護者支援と連携

- ・ひとり親世帯が 3 世帯でしたが、うち 2 世帯は祖父母の援助をえながら子育てをしているため、安定した生活がおくれています。1 世帯は、母親の精神的な不安定さが子どもの不安定さにつながるなどがみられ、情緒の安定を図るような対応に心掛けました。父母の不仲が、子どもへの対応に影響していると思われるケースでは、面談や日常的な会話を通し家庭状況の把握と子どもへの関心を持ってもらうことなどを積み重ねてきました。継続した取り組みが今後必要です。
- ・クラス懇談会は各クラス 2 回実施しました。どのクラスもビデオで子どもたちの様子を伝えることでわかりやすい、リラックスした雰囲気のもと、担任や保護者同士の交流が計

れ信頼関係が築かれてきました。未満児クラスは、保育園での遊びを紹介し家庭での親子の触れ合いに役立ってもらえるように、参加型の保育参観を夕方の時間に設定し、多くの保護者が参加してくれました。

1月には、元小学校の教員の方を講師に迎え、年長児保護者向けに育児講座を設定、全員の保護者の参加で実施できました。就学に向けて、親の不安を解消するためにも育児講座は必要だと思いました。

- ・保護者会役員会は定期的に開催され、保護者が自主的に運営できるように援助しました。

#### 4. 職員の研修と評価

- ・公的な研修にはどの職員も参加できるようにしました。連続しての研修や、各人の課題に応じて派遣し、復命してもらうことで、学び合うことができました。ただ復命内容を理解する、討議する時間の確保が今後の課題です。園内研修は「絵本について」、「わらべうた遊び」について定期的に実施しました。

- ・発達障害についての自主研修には多くの職員が参加し、自閉症や、ダウン症についての理解を深めることができました。

- ・今年度は保育総括会議を2回実施しました。前期は場面記録の検討としました。具体的な対応について、子どもの気持ちを理解することにつながりました。後期はクラスのまとめとしました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ・多賀城市認可保育所と私立小学校との連絡会を年4回実施しました。小学校教員との情報交換、小学校見学2カ所、小学校校長の講話などの内容でした。保育要録の送付とともに、学校ごとの幼保小連絡会に出席し学校での配慮につながりました。

- ・地域との連携では、夏祭りで町内会掲示板へポスター掲示、ご近所へのあいさつ回り、焼き芋会やなど、クリスマスコンサートの案内掲示など、保育園への関心を持っていただけるようにしました。また散歩や行事の時には、地域の商店を利用するなど結びつき作り今後につないでいく計画です。地域の乳幼児向けのあそぼう会実施については今後の課題です。

#### 6. その他

今年度はNPO法人介護サービス非営利団体ネットワーク宮城による第三者評価を受審しました。5年目を迎えた保育園全体を振り返ることができました。保育内容については、A評価が多く誠実に保育にあたっていることが評価されました。組織、運営の点では、B及びC評価が多く今後、保育の質の向上に向けて、組織としての定期的な評価・見直しの必要があることが明らかとなりました。

## くさの実保育園

2015年度、くさの実保育園の運営を以下のように取り組みました。

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標として、産休、育休明けの子どもを受け入れてきました。14名程度の入園見込みがあり、13名の入園となりました。

また夜勤や休日勤務、諸会議等に対応するため夜間保育、休日保育を実施してきました。

### 1. 利用児童数

#### ①日中園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人	2	2	3	4	6	8	7	9	10	12	13	12

保育時間 8:00～18:00

#### ②夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	72	69	66	62	63	60	54	51	36	53	78	63	727

保育時間 16:00～21:00 (休日を除く)

#### ③休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	1	1	9	4	4	8	8	5	1	4	3	2	8
	1	5						1					4

保育時間 8:00～18:00 年間32日 開園

#### ④職員配置

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育士 8h	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
保育士 6h	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補 助6h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員 6h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

## 2. 保育内容

### ① 日中保育

- ・子どもと保育士の愛着関係を大切にしよう
- ・遊び、睡眠、食事を基本に生活リズムを整えられるようにし、赤ちゃん体操、屋上で外気浴、散歩車での散歩に積極的に取り組みました。
- ・誕生日会、避難訓練は下馬みどり保育園と合同で実施しました。

### ② 夜間保育

- ・0歳～小学2年生の18名の子どもが利用しました。
- ・利用頻度は2か月に1回という子もいれば月に10回以上の利用の子どももありました。
- ・小学生には広い空間での遊びを大切にして下馬みどり保育園のホールを利用することもありました。

### ③ 休日保育

- ・毎回2～5名程度の利用でゆったり楽しく過ごせるように工夫しました。
- ・年齢差のある児童の利用の日は事故、怪我のないよう安全面に配慮し保育に取り組みました。

## 3 健康

- ・内科・歯科検診は年に2回、下馬みどり保育園と同日に実施しました。
- ・アレルギー児への対応として診断書に基づきアレルギー食を提供しました。卵アレルギー除去食の子どもが数名いましたが、誤食もなく対応できました。
- ・ノロウイルスによる感染症罹患児が12月に4名となりましたが、それ以上の感染には至りませんでした。
- ・受診するような怪我はありませんでした。

## 4 安全衛生環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と合同で毎月実施しました。
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理を適切に行い、乳児にとって快適な環境が保たれるようにしました。
- ・おもちゃの消毒、保育室の清掃に配慮しました。

## 5 認可外保育施設運営費補助金

多賀城市に居住する子どもに対して補助金がありました。

@4500円×のべ28人＝126,000円（年間）

## 5 評価と課題

- 多賀城市や、保育協議会主催の研修が認可外保育施設に対しても案内があり、どの職員も参加しました。
- 夜間保育と休日保育の予約が急にキャンセルされることがあり、勤務予定職員の業務がなくなるがありました。
- 年度当初から 8 月までは日中保育の子どもが少なかったので、下馬みどり保育園で実務研修ができました。

## 古川くりの木保育園

古川くりの木保育園の2年目は、「新制度」がスタートし大崎市の待機児童数が増加する中で在園児の受入枠を広げました。また、一時保育や病後児保育事業・障害児保育の要望も多く保育体制をとりながら取り組みました。

### 1. 事業規模

#### 入園状況（毎月1日の利用数）

2015年は定員75名に対して、大崎市の待機児童対策に応え0歳から4歳児の84名を受入れ、年間通してほとんど変動なく推移しました。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
2歳	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25
3歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
4歳	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
5歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	84	84	83	84	84	84	84	84	84	84	84	84

### 2) 職員体制

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員(師)	事務・他	計
正規職員	1	13		1			15
臨時職員		4					4
パート(6H)		3	1		1		5
パート(5H)					1	2(事務・用務)	3
パート(4H)		3					3
パート(3H)					1		1
計	1	23	1	1	3	2	31

(上記の他に嘱託内科医1名、歯科医1名)

職員体制は、正規職員15名と臨時職員4名・パート職員12名の計31名でスタートし、途中臨時・パート保育士2名と給食パート1名の退職による交代がありました。また、年度途中に産休・育休者の代替が必要になり(保育士3名・栄養士1名)、保育体制に苦慮した年でした。

昨年に続き要望の多かった、一時・特定保育は正規保育士 1 名・臨時保育士 1 名の 2 名を配置し、病後児保育には看護師 6H とパート保育士の 1 名を配置し対応しました。

### 3) 保育事業内容

事業としては大崎市より要請があった一時保育、病後児保育の他、産休明け保育・1 時間延長保育・障害児保育・地域交流事業（遊ぼう会）を行いました。

### 4) 職員の業務分担と役割

- ・2 年目の管理体制は、副主任保育士を 2 名体制にし、園長・主任の 4 名体制で管理運営の充実に努めました。特に「新制度」スタートに伴う制度変更事務の増加に園長・主任が協力してあたりました。
- ・0 歳児 1 クラス、1 歳児 1 クラス、2 歳児 2 クラス、3・4 歳児幼児部混合 1 クラスの 5 クラスを担当保育士 15 名で保育を進めました。
- ・一時保育、病後児保育は 4 名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ・事務は本部による日々の指導の下、経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めることができました。
- ・児童の栄養管理・保健業務・環境整備等は前年に引き続き、保育士・栄養士・看護師・用務が管理部と連携をとりながら取り組みました。

### 5) 設備・環境・保育整備について

- ・2 年目は、初年度に続き保育や行事に必要な備品・保育材料を検討しながら計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ・保育運営の上で、安全や不具合があるところの改善を必要に応じて行いました。
- ・園庭や園周辺の散歩コース等の安全点検を随時行い必要に応じて改善しました。

## 2、保育内容について

子ども・子育て支援新制度が導入され 1 年が経ちました。児童福祉法第 24 条 1 項の市町村の責任によって保障される子どもの権利は残されたものの、いろいろな課題もできました。新制度では、保護者の就労時間に応じて認定時間（短時間・標準時間）が決まり、保育認定の子どもの把握や事務量増加など複雑になりました。また、短時間認定の方には周知が徹底されなかった為、保育時間の説明を保育園で行いながらスタートしました。大崎市では、短時間認定の保育必要時間に休憩や通勤時間が含まれない為、標準認定になれないケースもあり、大崎市には制度の改善を求めてきました。すべての子どもたちが平等に心身の健やかな育ちを保障出来るよう今後も福祉の向上を実現できるようにしていきたいと思います。

### 1) 保育内容

- ・年度途中での職員の退職や産休代替えでの職員（担任）の入れ替わり、職員の病休などもあり、保育体制やクラス運営に苦慮した 1 年でした。各クラスの保育については、今後も年齢ごとの発達をおさえた保育を全職員で確認していく必要があります。前期の総括を終え、各クラスリーダーとの面談を行い、後期の保育運営について園長と主任を

中心に課題を明確化し、方向性を示すことが出来ました。担任も悩みながら保育を行っている現状に管理部も共に考え、保育を創っていくことが必要となっています。

- ・障害児保育：今年度は2歳児に2名、4歳児に2名の児童が在籍しました。子どもや保護者との信頼関係を作りながら、丁寧にやりとりをし、子どもの成長した姿を伝えあいました。担任間の悩みをそのままにせず管理部で話し合い、全職員会議で相談し合いながら園全体で理解し子どもの育ちや保護者の思いを共有できるようにしてきました。

## 2) 保護者との関わり

- ・保護者が安心して保育園に子どもを預けることができるように、日々の伝え合いを大事に、信頼関係づくりに努めました。子どもの成長を通して保護者自身が悩みを打ち明け、一緒に考える関係が出来てきています。年2回の父母懇談会においては子どもの成長を喜び合い、悩みを聞く機会にもなり、保護者同士が繋がる機会となっています。また、保育参加も保育を知ってもらう機会として年1回設けていますが、我が子だけでなく同じクラスの子もたちと触れ合い、参加している保護者同士が繋がる場になってきています。

しかし、保護者との連携の難しさも一方ではあり子どもを真ん中に伝え合いの方法や手段など職員が学びながら対応をしていかなければいけないと感じています。

- ・保護者理解の面では、保育参加後に個別面談を位置づけし、悩みや家庭の状況の把握する予定でしたが、職員体制の都合で実施できませんでした。来年度は初めての年長児をしっかりと位置づけし行っていきたいと思います。障害のある保護者に対しても同様に個別面談を行っていきます。

## 3) 安全管理

- ・災害時の非常食を今年度前期に購入し備蓄し、非常時に備えました。計画的に今後も準備をしていきたいと思います。
- ・園内の危険個所を新年度に職員同士確認しました。職員が気づいたことは、管理部に伝えてもらうようにし、安全管理につとめ子どもたちや保護者が安心して保育園生活を送れるようにしていきたいと思います。今後は、園庭環境の整備などにつとめていきたいと思います。
- ・災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、年2回の総合避難訓練を実施しました。職員同士の役割、連携をしっかりと行っていききたいと思います。
- ・お迎え後、子どもを保護者に引き渡してからの怪我がありました。保護者にも送迎の際、子どもから目を離さないようおたより等をお願いするとともに、園としても保護者がきたらしっかりと引き渡すことを確認しました。
- ・全職員対象に救急救命講習を年1回行いました。

#### 4) 職員研修について

- ・全職員で法人理念や保育理念の理解をさらに深められるように研修に参加してきました。また、職員一人一人が保育実践（場面記録）を通して、子どもの捉え方、思いを理解できるよう前期の総括会議で一人一人が場面記録を記入し、自分の保育について深めました。自分の保育観を見つめ、他の職員の保育についても意見交換ができる場になり、クラスだけではなく全職員で子どもたちの姿を捉えるものとなりました。
- ・園内研修や法人研修などは計画的に全職員が参加できるよう努めました。大崎市、県保協、現任保育士研修、全国合研、全国保問研、経営懇主任セミナーなど保育の質を高める研修に参加できたことはもちろん、若い職員が国会要請行動、沖縄辺野古など社保の運動に参加することができました。
- ・子ども、子育て支援新制度が施行され、保護者にとっては、就労時間に応じて認定時間が決まりそれによって保育時間や保育料が決められ分かりにくい制度といえます。職員は新制度の学習に参加し、保護者とともに園内で学習会を行い学び合いました。これからも情勢を敏感にキャッチしながら学習していきたいと思えます。

#### 5) 小中学校や地域との連携

- ・中学校の職場体験や看護実習生の受け入れ、古川工業高校の学生さんが手作り玩具を製作してくれるなど地域の学校との交流がありました。今後は、近隣の大崎中央高校や誠真短大のボランティアなどの受け入れや交流を大事にしていきます。また、小学校との連携については年中児までしかいなかったもので、今後の課題とします。
- ・福沼地域の方には、園の行事（夏祭り）にお誘いし、近隣の方々に参加して頂きました。地域の行事には参加することができなかつたので、今後は積極的に参加していきます。
- ・今年度は月1回（5月～12月）遊ぼう会を開催することが出来ました。園を開放し一緒に遊びを楽しんだり、子育ての悩みを聞くなどの場になってきています。

#### 6) 保健活動について

##### 《2015年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	303	263	224	199	111	218	203	216	184	210	164	179	2474

##### 《2015年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	10	25	12	12	6	8	10	4	7	2	3	9	108

投薬は風邪による依頼が大半を占め、一年を通して依頼の件数が多く体調を崩しながらも登園している子どもが多いことが分かります。子どもの体調の変化に十分配慮して保育していくことや、保護者に対して家庭での過ごし方（休息や栄養などの基本的な部分）、病気のときの対応についての指導を継続して行っていく必要があると感じています。また、同じクラスで一日に 5 名以上の投薬依頼がある場合もあります。昼食後の慌ただしい時間での与薬ということで、細心の注意を払い、ミスが起こらないようダブルチェックを基本にしました。確実に与薬を行うこと、またその責任については職員間で再確認し、薬に関するミスが起きないようにしていきたいと思います。

保育中のアクシデントについては、咬傷、引っかきが大半を占めています。しかし、中には誤食や投薬忘れなども起きていて、重大な事故につながりかねないと感じています。小さなアクシデントでも報告し職員全員で学び合い、改善していくような仕組みを今後も続けることで、より安全で安心な保育ができるようにしていきたいと思っています。また、感染予防の点から、予防接種歴の把握とともに未接種者への声掛けを行ってきました。集団の中での予防接種の意味、重要性を今後も保護者に伝え続けて行こうと思っています。

#### 7) 給食・食育活動について

開設 2 年目は引き続き離乳食やアレルギー食、障害を持つ児童一人一人に丁寧に対応する考え方で取り組んできました。昨年度、アレルギー児への誤配膳といったミスがあったため、配膳前のチェックの改善徹底をしました。また、離乳食では 0 歳児クラスの離乳食の進み方に個人差が大きく、1 歳を過ぎても完了食に移行できないケースの、家庭との連携が十分に図れなかった点は今後の課題です。

- ・「日本人の食事摂取基準」に基づき栄養所要量の評価を行い献立に活用しました。必要量は毎月ほぼ充足していますが、食物繊維は 70% 程度の充足率の為改善を図ります。

- ・行事食は毎月 1 回のお誕生会と地場産給食、クリスマス会、豆まき会、もちつき会を行いました。行事の趣旨や子どもの食べている様子を家庭に伝える工夫が必要と感じました。食事の展示のほかにクッキングの写真など家庭への情報提供になる掲示物の作成をしました。

- ・保育と一緒に以下のような食育活動に取り組み年齢に応じた経験ができました。

  - 果物を切るところを見てみよう（0 歳児クラス）

  - 野菜の皮むき活動（2 歳児の各クラス）（空豆、玉葱等）

  - おにぎり作り（1, 2 歳児の各クラス）

  - 型抜き、団子づくり（3, 4 歳児クラス）

- ・食育活動の計画案・報告書を作成して“テーマとねらい”を園全体で共有しました。

### 3. 補助金による事業

#### ①延長保育事業

##### 《2015年度 利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
18:31分の1日平均数(標準時間児)	6	6	6	7	6	7	7	8	7	6	7	7	6.7

・在園児84名中短時間登録児8名、標準時間登録児30名で、18時31分時点の年間利用数は月平均6～8名となっています。年齢別では0～1歳児が半数をしめています。

#### ②病後児保育事業

##### 《2015年度 病後児利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	15	15	11	9	18	13	22	14	12	11	19	19	178

病後児保育の2年目は利用児数が延べ178名となり、月平均約15名の利用となりました(昨年比+22名)。年齢的には、3歳未満児の利用が大部分を占め、特徴としてダウン症などの基礎疾患を持つ子や医療援助の必要な障害のある子の定期的な利用が増加しました。施設別ではくりの木在園児が6割・他保育園と家庭・小学生が4割と全体的に増加傾向にあります。今後も保護者の子育て支援としての病後児保育の上手な利用を進めていきたいと思えます。

#### ③一時・特定保育事業

##### 《2015年度 一時保育利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	163	177	201	165	95	140	149	144	147	128	157	166	1,916

一時保育の2年目は利用児数が延べ1,916名で月平均数は160名でした(昨年比+176名)。昨年以上に登録・申請・予約等の問い合わせが増え、待機児童の増加に伴う0・1歳児の利用も増加しました。日々の保育体制に苦慮しながらも1年を乗り切ることができました。

#### ④障害児保育事業

2年目は4歳児1名を受入れ、2歳児2名・4歳児2名の計4名を保育士の加配を行いながら支援を行いました。

#### ⑤地域交流事業

##### 〔2015年度の実施状況〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
あそぼう会	—	5	4	—	3	7	7	5	7	—	38
世代間・地域交流(夏祭り)	—	—	—	420	—	—	—	—	—	—	420

今年度は、遊ぼう会を5月から12月まで開催することができました。地域の親御さ

んや一時保育を利用している親御さんが参加してくれ、開催を楽しみにしているという声が聞かれました。また、地域交流の夏祭りは地域に定着してきており、近隣の皆様や園児の家族（祖父母や親戚）の方の参加で様々な交流が広がってきています。

今後はもっと多くの方に参加してもらえるような企画・内容を考え、子育てについての情報、悩み、喜びを共有できる場にして行きたいと思います。

## 仙台市宮城野児童館

### 1 みんなで子育ての理念のもと、地域の実情を踏まえた児童館運営

#### (1) 地域の実情と利用者の要望を的確に把握し、そのニーズに応えられる児童館運営に 取り組み

- ①利用者の要望を調査するため、利用者アンケートを実施しました。
- ②幼稚園入園前や保育所待機児童の親子の情報交換や安全な遊び場提供の役割を果たしてきました。
- ③館行事などでは、多くの地域ボランティアの方々に支えられながら運営しました。
- ④中高生の相談に乗り、継続した話し相手になり、必要に応じて各学校とも連絡を取り合いました。

#### (2) 子どもたちの健全育成・世代間交流を重視した運営

大規模放課後児童クラブとして二つの小学校の行事と子どもの動きに適切に対応してきました。また高齢者との交流を図る活動に努めました。

### 2 利用者サービスの向上。地域住民に親しまれ、愛される子育て支援の拠点としての児童館作り。

- ①地域に開放され、地域の方に愛される児童館を目指して広報活動に努めてきました。
- ②館だよりの小学校実家庭数への配布、地域町内会回覧板の利用、外部掲示板の充実等を行いました。
- ③ホームページを開設し、諸行事や感染性疾病の流行情報、学校休校時の開館情報など、誰もが簡単に児童館情報を入手できるようにしました。
- ④利用者との共感、信頼関係の構築に努め、そのための内外の研修に力をいれました。
- ⑤個人情報保護に細心の配慮をし、信頼される居場所づくりに努力しました。
- ⑥今年度も年間利用者総数は3万人を超えました。

### 3 児童館職員の人材確保と人材育成。子どもの人格形成にまで及ぶ職責を認識して運営に従事すること。

- ①職員相互の児童理解を交流し合い、お話の仕方、集会の進め方、行事企画の仕方他、子どもの遊びについて学び合い、児童館運営の研修に努めました。
- ②毎週1回全職員会議と毎日実施のミーティングでは、成長していく子どもの姿や課題を確認しました。
- ③各機関の実施する講習会や各種研究集会などへも積極的に参加し研鑽を重ねました。
- ④子どもの育ちの背景を知るためにも、保護者の働く環境を知ることにも努め、保護者との対話を充実させました。

- ⑤思春期を迎える小学校高学年以上の発達に係る研修にも参加し、今後上学年児童の児童クラブ登録に備えました。

#### 4 子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す健全育成事業。常時、発表や展示の場を積極的に設ける。

##### (1) 親子の絆を高める活動の展開

- ①児童クラブ室は、小学生の不在の午前中を子育てサロン室とし、ランチタイム、カフェコーナーで仲間づくりと子育て談義の場を提供しました。
- ②2、3歳児登録制の幼児クラブ2クラスの活動を展開し、集団遊び、絵本の読み聞かせ、わらべうたあそびを充実させ、またおもちゃ作りや粘土あそび、お店屋さんごっこ、音楽遊び等の創作活動も実施し、幼児期に大切な心・感性・からだ・知恵を育ててきました。
- ③「赤ちゃんサロン」を毎月1～2回開催し、育児相談活動や、育児談義と仲間づくりと、保健師や栄養士から子育ての知恵を学ぶ機会をつくりました。ベビーマッサージ、ベビーヨガ等親子で楽しめる活動に取り組みました。感染症予防や食生活についての学習会を行いました。
- ④利用者の「幼児遊びの充実を」の声に応えるため、「ぷちぷち遊びの会」を月に1～2回開催しました。

##### (2) 自主的な活動と手足を使った活動の展開

この時期に「自分の責任で、自由に遊ぶ」子どもたちが育つための支援と個性を生かす次のような活動の推進をしました。

- ①手指や道具を使用し、作って遊ぶことの奨励、毎月の工作教室、折り紙教室、粘土を使った造形遊び
- ②集団遊び、伝承遊びの奨励 昔あそびの紹介
- ③運動を通して体と頭と心を鍛える機会をさまざまな場面で展開してきた。スポーツ大会、外遊びの奨励。
- ④読書や歌、ピアノやギターの練習など遊びを通して楽しむ。朝の会での歌の継続。諸行事に歌。
- ⑤日常の遊び・活動を大切にし、子どもの個性や特技を生かし伸ばす活動を積極的に推奨。図工作品の展示・人形劇の発表・草花の世話・折り紙・囲碁等の活動を日常化。
- ⑥「こども会議」を開催。子どもたちの意見で児童館活動を改善。  
利用する子どもたちの課題については、必要に応じて「こども集会」を開催し、約束事の徹底を図りました。
- ⑦観たい映画や取り組んでほしい行事を要望できるように投書箱を常設。  
投書の内容については職員の話し合いで検討、結果を児童に返すようにしました。

**(3) 自由で開放感を味わえる場と時間作り。自分の存在が認められる喜びの体験。思春期の悩みに耳を傾ける機会の設置。**

- ①自主活動の場の提供－運動や音楽活動
- ②小学生との交流
- ③仙台工業高校吹奏楽部の定期演奏会の実施
- ④仙台工業高校模型部作成のコマ撮りアニメの制作と上映会開催
- ⑤仙台工業高校建築クラブの協力を得て、木工教室の開催
- ⑥中高生の職場体験・ボランティア体験への積極的な協力。

## **5 地域における子育て支援事業を推進**

### **(1) 登録の幼児クラブ**

2歳児・3歳児を対象の登録制幼児クラブで、毎月1回、親子交流、仲間づくりの行事活動を行いました。ミニ運動会や豆まき等季節の行事に取り組みました。

### **(2) 赤ちゃんサロン**

乳幼児からの子育てのノウハウを学び、育児相談・育児談義と仲間づくり、保健師や栄養士の指導を受ける機会を設けました。

### **(3) ぶちぶち遊びの会**

「子どもと気軽に遊べる場がほしい」という利用者アンケートの要求に応え、月1～2回ぶちぶちあそびの会を開催しました。

### **(4) 育児相談室**

週5回のランチタイムと週2回のカフェコーナーを設け、おしゃべりサロンとしての親子交流の場を通して、育児諸問題・引きこもりの親の発見・館への誘い等の相談活動を行いました。

## **6 地域で子育て、みんなで子育てをモットーにした地域連携。地域の力を生かした児童館運営。**

### **(1) 隣接する仙台工業高校との連携**

- ①吹奏楽部演奏会(8年目)、模型部のコマ撮りアニメの制作と映画会を実施(5年目)、建築クラブの木工教室(3年目)
- ②生徒のボランティア活動を、もちつきや児童館まつりなど様々な行事の場で展開。
- ③仙台工業高校の2年生全員が、家庭科保育単元の学習で移動教室を児童館で実施、乳幼児親子とふれあう場を作りました。

### **(2) 地域の力を生かして**

地域に居住する方の水彩画や子どもたちの折り紙作品、平和を願う千羽鶴などの館内掲示で、季節感あふれる館内装飾を心がけてきました。

地域の子育てママのハンドベルサークルの練習会場、演奏発表の場の提供。

## 7 放課後児童健全育成事業 安全・安心・快適な「生活の場」作り

- ・保護者のニーズに応え、入会希望児童は全員承認してきました。
- ・小学校2校からのおよそ130名の大規模児童クラブ対応として、宮城野小学校教室にサテライト室（第2児童クラブ）増設しました。
- ・本館と分室のクラス編成を行いながら、交流を密にして、子どもたちが満足できる運営の工夫に努めてきました。また保護者や学校との連携を密にするよう努めました。
- ・遊びや行事参加の公平性に努め、自由来館児との融和を積極的にすすめました。

## 8 事故防止・防犯防災

### (1) 事故防止・防犯防災

- ①毎月1日を安全点検日、また年2回、防災訓練を学校、警備保障会社（セコム）、消防署、警察署と連携をとりながら実施しました。
- ②防災訓練では、火災・自然災害対応等の訓練及び非常口経由の避難訓練、救急治療法の研修などを実施しました
- ③夏休み前に救命救急講習を全職員が受講しました。

### (2) 事故・災害・緊急時への対応体制

- ①非常事態に備えた職員組織体制の確立しています。
- ②指揮系統図、連絡系統図、職員分担、災害時対応のフローチャート等の作成、館内全室に緊急時のマニュアルを掲示しています。
- ③児童及び来館者への日頃の教育、啓蒙を図りました。

### (3) 来館児童・来館者の衛生管理

- ①子どもたちの衛生状態、衛生管理（特に感染症）について、研修会等での学びを交流し情報の還元を行いました。手洗い場・トイレの清掃管理、ペーパータオルの常備、及び、館内外の清掃に努めました。
- ②外遊びから戻ったときやおやつ前の手洗いなど、日常的に呼びかけました。
- ③インフルエンザの流行時には、児童館内外に感染症の病気の発生を知らせるポスターを貼り、感染拡大を防ぐよう努めました。
- ④冬季は職員が入館する子どもに玄関で手洗いうがいを呼びかけ、確実に実施させ、習慣化しました。

## 9 施設維持管理面での取り組み

### (1) 施設の管理全般

警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図りました。また組織図に基づいた指揮系統の下に、管理に係る問題発生時は、仙台市並びに関係諸機

関に相談連携し、迅速な対応に努めました。

(2) 施設の維持管理に関わる個別業務

開館日の早朝全館清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、また年2回の窓掃除（窓ガラス・網戸）と床のワックスがけ清掃を委託しました。また、印刷・コピー・冷暖房・施設内消毒・消火設備点検、樹木の消毒なども業務委託しています。

(3) ごみの減量・エネルギー削減等環境配慮

利用者に電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、減量の意識化、地球環境への意識づけの広報活動を行いました。

## 工房歩歩

### 1. 施設運営状況

#### 【施設利用者数推移表】

平成 28 年 3 月 31 日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	13	13	13	13	12	11	10	10	11	11	11	11
女	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
合計	15	15	15	15	14	13	11	11	12	12	12	12

#### 【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,691	1,709	1,820	1,847	1,269	1,134	1,146	1,202	1,118	1,555	1,303	1,460	17,254

### 2. 施設運営について

- (1) 職員配置状況：管理者兼サービス管理責任者 (1) 生活支援員 (1) 職業指導員 (2)  
支援員補助 (1) 平成 27 年 8 月末 1 名退職  
平成 27 年 10 月末 1 名退職 27 年 10 月 2 名採用
- (2) 利用者様状況：療育手帳 B (10 名)、精神保健手帳 (2 名)
- (3) 施設収入は工賃見直しにより赤字改善を試みたが、工賃減額に伴い利用者さんが退所したことによって加算収入が減少した。

#### 【平成 27 年度パン清掃業務売上推移表】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,144	1,226	1,320	1,241	1,104	684	995	762	816	731	766	854	11,643

#### 【平成 27 年度月別工賃支給額】

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
591.	583	569	605	611	484	161	155	152	156	155	166	4394

### 3. 就労支援事業について

- (1) 法人内介護事業所の清掃業務が 1 箇所減ったことによって、月平均 20 万円ほどの収入となっている。
- (2) パンの売上を前年から伸ばすことが出来ず、原材料の見直しと販売商品の見直しを年度末頃から行っている。
- (4) 清掃業務を受託することで、利用者様の作業の幅を広げることができている。一般就労の訓練という観点でも清掃業務の位置づけは非常に重要なものとなっている。
- (5) 保育所等からの給食用パンの注文回数が増えた。また法人内社保財政活動でパンの販売協力も多くいただくことができた。
- (6) 宮城厚生協会の長町病院、古川民主病院からの注文回数が増えた。

#### 4. 平成 27 年度行事について

4 月	観桜会	利用者様 15 名、職員 5 名
	個別支援計画面談実施	利用者様 15 名、保護者様 15 名

※平成 27 年度は工賃見直しによる利用者さんの減少、職員の大幅な退職・入職があり、落ち着いた状況となったため行事が減少しました。

#### 5. 平成 27 年度総括

4 月スタート時点では利用者様は 15 名で始まり、7 月末で 1 名が退所となり、8 月末で 1 名退所、9 月末で 2 名退所となり、10 月初めでは 11 名の人数となった。12 月の中旬の中旬頃に清掃事業の利用希望者が 1 名入所し、27 年 3 月 31 日時点で利用者数は 12 名ととなった。パン製造における利用者様で工賃見直しにより 3 名退所されたことでスペースに余裕ができ、利府支援学校や連携を図っている相談支援事業所に利用者様の受け入れ可能であることを連絡して新規利用者様の増員を目指している。清掃事業では職員の不足による田子のまちの清掃業務を終了したことにより、田子の清掃業務を行っていた利用者様が十符・風の音に異動したことにより十符・風の音の利用者様は 7 名となり定員が一杯の状態となっている。

パン製造と清掃事業において経験年数が数年経ち、作業技術やコミュニケーションスキルが成長してきているが見られるようになってきており、同じ環境下での刺激も不足気味に感じられる。新たな環境での作業を経験し、不慣れな場所で自分の実力を発揮できるよう職場体験実習を個別支援計画に取り入れて利用者様の更なるステップアップを図っていき、実施時期に付いては利用者様と保護者様、相談支援事業所等の支援員と相談しながら検討していきたいと考えております。

27 年度は職員や利用者様の入れ替わりや清掃事業の縮小による利用者さんの現場異動、工賃の見直しによる減額など慌しい一年となり、安定した業務を行えなかった。28 年度は利用者様に落ちついた状況で作業に取り組んで頂き、行事等も積極的に行っていき、利用者様の作業意欲の向上を図るとともに、パン製造での収益の改善、新規利用者様の獲得に向けて取り組んでいきます。

## 障がい児者サポートセンター てとて

### 1 各事業の基本方針

#### (1) 【児童部門】

住み慣れた地域で相談から療育までのワンストップでの支援、そして幼児期から少年期までのライフステージで個々の状況に応じた専門性のある支援が多機能に提供できるセンター機能の定着を図ります。

#### (2) 【就労部門】

地域で生活する障がいのある方々が「働くこと」を通して、一般就労や生産活動を行う中から働く事の楽しさを知り、また、生活していく力を養い、社会的自立に向け訓練から雇用までのステップアップを実現する事を目的に支援を図ります。

#### (3) 【相談部門】

身体・知的・精神など障がいのある方や、その家族が抱える様々な悩みや困りごとについて相談を受け、必要な福祉サービス計画を作成しながら、福祉の制度及び地域にある資源の情報を提供します。また、各機関と連絡調整を図りながら、利用者のニーズに応えるよう努めます。

### 2 児童発達支援事業所の取り組み

#### (1) 児童発達支援センター りんごのほっぺ

①重点目標・・・年間を通した利用率の安定を図る。

平成 27 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	210	180	220	220	160	190	210	190	190
延利用者数	95	112	149	141	115	121	136	149	152
稼働率	45.2%	62.2%	67.7%	64.1%	71.9%	63.7%	64.8%	78.4%	80.0%
平均利用人数	4.5	6.2	6.8	6.4	7.2	6.4	6.5	7.8	8.0
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	170	200	220	2,360					
延利用者数	133	166	190	1,659					
稼働率	78.2%	83.0%	86.4%	70.3%					
平均利用人数	7.8	8.3	8.6	7.0					

4 月当初は、稼働率 50%を下回る厳しい状況であったが、5 月以降契約利用者数も増え、稼働率を 60%台にすることができた。7～8 月にかけては、体調不良による休みが多く出したものの稼働率を 70%台に伸ばすことができている。2 月には定員 10 名の枠を全て埋めることができ、2～3 月で稼働率を 80%台にすることができた。

②行事、家族との連携・交流等

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事を下記の日程で実施しました。

実施月	内 容	実施月	内 容
5月	小遠足①	10月	遠足
6月	保育参観①	12月	保育参観②・クリスマス会
7月	小遠足②	2月	豆まき
9月		3月	後期健康診断
		3月	修了式・保育参観③

※夏季期間…水遊び 冬季期間…雪遊び

(2) 放課後等ディサービス てくてく

①重点目標：年間稼働率の向上

平成 27 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	420	360	440	440	380	420	420	380	380
延利用者数	111	103	133	124	125	127	158	134	146
稼働率	26.4%	28.6%	30.2%	28.2%	32.9%	33.4%	37.6%	35.3%	38.4%
平均利用人数	5.3	5.7	6.0	5.6	6.6	6.7	7.5	7.1	7.7
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	340	400	440	4,780					
延利用者数	118	143	143	1,565					
稼働率	34.7%	35.8%	32.5%	32.7%					
平均利用人数	6.9	7.2	6.5	6.5					

4月から6月まで、児童発達支援センターと放課後等ディサービスの職員体制は兼務という体系をとっており、また保護者によるお迎えをお願いしていたため、契約数及び稼働率を伸ばすことができなかった。この点を改善すべく7月より、事業所から自宅までの帰りの送迎を実施し、児童発達支援センターと放課後等ディサービスの職員業務を兼務から専従に変更している。結果、稼働率を20%から30%台へ伸ばすことはできたものの、目標としていた稼働率50%に到達していない。目標未達の原因を分析し、1月より休校日の午前開所及び土曜日開所に関する検討会議を開催。平成28年度4月より第2・第4土曜日を開所日とすることを決定している。また、夏休み（長期休校日）の午前中からの受け入れるための体制準備を進めています。次年度は75～80%の稼働率で回すため、相談支援事業所や行政と連携した営業活動及び新規利用者獲得を実施していきます。

## ②行事、家族との連携・交流等

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事の経験、小集団での社会体験の場を提供した。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見	11月	小遠足
5月		12月	クリスマス会
6月		1月	書初め
7月	社会見学①	2月	豆まき
8月	社会見学②	3月	ひな祭り

※7月～8月学校夏休み ※12月下旬～1月上旬学校冬休み

※3月下旬～4月上旬学校春休み

### (3) 保育所等訪問支援 てとて

重点目標・・・事業内容の周知

平成27年度における保育所等訪問支援の実績はありません。

保育所等訪問支援については、今年度3月末に当事業所における児童発達支援センターを修了して、一般幼稚園及び保育園に移られた方を対象に家族及び幼稚園、保育園へ保育所等訪問支援事業に関する提案を相談支援事業所と連携しながら進めていきます。

### (4) 相談支援事業所てとて

重点目標・・・①障がい児者サポートセンターてとて各事業所への新規利用者紹介

②てとて全事業所の稼働率の向上

平成27年度実績

	相談契約件数	モニタリング件数
障がい児相談支援	28件（うち新規15件）	54件
障がい者相談支援	21件（うち新規12件）	35件

開所から2年が経過し、障がい児者ともに相談件数が増加している。当事業所の利用へ直接結びつく相談が多いが、他事業所や困難ケースの相談件数も増えている現状となっています。現在、相談支援専門員の配置は1名となっていますが、当事業所で新規利用者を獲得していくという点から、相談件数が増えていくことが予想されます。4月以降も障がい児及び障がい者からの相談依頼が3～4件きている状況にあります。その中には、当事者への支援はもちろんのこと、家族全体への支援を必要とする困難なケースが増えてきている傾向にあります。そうしたことを鑑み、次年度の課題としてパート職での相談支援専門員の採用が課題となっています。この点について留意しつつ、次年度の相談支援業務体制について検討しながら事業の展開を推進していきます。

### 3 就労支援事業所の取り組み

#### (1) 【就労移行支援事業】

重点目標・・・就労支援プログラムの再構築、企業開拓への取り組み

平成 27 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	126	108	132	138	126	126	132	126	114
延利用者数	62	65	54	45	46	37	37	33	32
稼働率	49.2%	60.2%	40.9%	32.6%	36.5%	29.4%	28.0%	26.2%	28.1%
平均利用人数	3.0	3.6	2.5	2.0	2.2	1.8	1.7	1.6	1.7
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	120	120	132	1,500					
延利用者数	35	33	40	519					
稼働率	29.2%	27.5%	30.3%	34.6%					
平均利用人数	1.8	1.7	1.8	2.1					

就労移行支援事業は、2年間という期間限定で、一般就労を目指す方の職業訓練及び評価を実施する事業です。昨年度当初は3名の利用者とスタートしていましたが、7月より就労継続支援A型事業（雇用契約）へ1名の方が異動しています。そのため、現在の就労移行支援事業の契約者は2名となっています。また、そのうち1名が一般就労を希望しており、ハローワークの求人に応募して、サービス管理責任者と共に企業面接に4～5件チャレンジしておりますが、採用までは結びついていない現状となっています。もう1名については、本人及び保護者より就労継続支援A型事業への異動希望が出ているところです。次年度前半は、新卒者2名、新規1名、計3名の方が2ヶ月間の暫定支給を受けることになっています。

#### (2) 【就労継続支援A型事業】

重点目標・・・年間を通した利用率の安定

平成 27 年度実績

延定員数	210	180	220	230	210	210	220	210	190
延利用者数	0	0	0	22	58	54	64	59	56
稼働率	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%	27.6%	25.7%	29.1%	29.5%	29.5%
平均利用人数	0.0	0.0	0.0	1.0	2.8	2.6	2.9	2.8	2.9
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	200	200	220	2,500					
延利用者数	56	57	61	487					
稼働率	28.0%	28.5%	27.7%	19.5%					
平均利用人数	2.8	2.9	2.8	1.9					

平成 27 年度 4 月から 7 月までの期間は、就労継続支援 A 型事業において、雇用契約を締結した利用者はいませんでした。7 月より、就労移行支援事業から 1 名の方と雇用契約を締結、利用が開始されています。8 月に新規 2 名の利用者と雇用契約を締結し、計 3 名の方が現在利用しているという状況になっています。稼働状況としても年度全体で平均 19.5% と低い水準となっていますが、年度後半にハーローワークから応募のあった 3 名の方の面接を次年度初めに実施し、2 名の方を（5 月より）採用することを検討しています。また、弁当事業の収支状況が赤字であるため、次年度に向けて販路を拡大して就労支援事業収入を増やすこと、黒字化することを重点課題として取り組みます。平成 28 年 6 月より、食材仕入れ業者が変更になるため、切り替えをスムーズ且つ収益を落とさないよう準備を進めていきます。

### （3）【就労継続支援 B 型事業】

#### ①重点目標・・・年間を通した利用率の安定

平成 27 年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延定員数	294	252	308	322	294	294	308	294	266
延利用者数	157	134	172	194	153	153	169	152	128
稼働率	53.4%	53.2%	55.8%	60.2%	52.0%	52.0%	54.9%	51.7%	48.1%
平均利用人数	7.5	7.4	7.8	8.4	7.3	7.3	7.7	7.2	6.7
	1月	2月	3月	合計					
延定員数	280	280	308	3,500					
延利用者数	162	168	177	1,919					
稼働率	57.9%	60.0%	57.5%	54.8%					
平均利用人数	8.1	8.4	8.0	7.7					

平成 27 年度 4 月は、古川支援学校より新卒者が利用開始となり、50%台の稼働率となっています。7 月以降には新規利用者が 1~2 名入り 60%台まで稼働率を伸ばすことができている。しかしながら、8 月以降は利用者の長期入院等があったため稼働率が低下しています。3 月末時点での就労継続支援 B 型への契約数は 10 名となっておりますが、4 月初めには 2 名の方と契約して 12 名となる予定です。6 月には暫定就労移行支援から 2 名の方が B 型へ移る予定となっており、14 名すべてが埋まります。

就労継続支援 B 型の事業内容としても、みやぎセルフ協働受注センター様及びカメイ（株）様の協力を得ながら、箱折やシール貼り等の受託業務を行っております。就労継続支援事業における作業内容に幅を持たせることで、新規利用者の獲得に繋げることができました。次年度に向けては、利用者の積極的な社会参加及び作業量の確保という視点から、受託業務を増やしていくことを考えています。

## ②行事等

季節毎に年間の行事を定め、社会体験の機会となるよう支援しました。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見（荒雄公園）	12月	クリスマス会
8月	夏祭り（花火大会）		
10月	芋煮会（古代の里）		

### 4 情報公開、個人情報保護の取扱

- (1) 会報「てとて」の発行・・・年3回（6月、10、2月）発行しています。
- (2) 個人情報保護規定に基づく個人情報の適正な維持・管理を実施しています。

### 5 苦情及び相談への対応

- (1) 苦情解決責任者、苦情受付担当者の配置・・・苦情件数2件
- (2) 受付制度及びその内容について、利用者及びその家族等のへ周知徹底
- (3) 相談受付後は状況確認や改善等の対策を実施し、相談者へ速やかに対応していく。

### 6 人材育成及び研修計画

- (1) 内部研修・・・法人内研修への参加（1年目、2年目、3～4年目、5～7年目の各研修）
- (2) 外部研修・・・自閉症スペクトラム研修（宮城県）、就労支援研修（東京都）  
相談支援専門員研修（山形県）、食品衛生管理責任者研修（大崎市）

### 7 防災計画

- (1) 避難誘導訓練の実施・・・年3回（7、9、11月）
- (2) 通報訓練の実施・・・年2回（8、12月）
- (3) 防災器具、設備の自主点検の実施

### 8 職員の健康対策

- (1) 職員の定期検診の実施・・・年1回（7月古川民主病院にて実施）
- (2) インフルエンザ予防接種・・・年1回（11月古川民主病院にて実施）